

学業指導の充実に向けて (改訂版)

- 子どもたち一人一人が大切にされ、
安心して学ぶことができる学校を目指して —

令和7(2025)年3月

栃木県教育委員会

はじめに

県教育委員会では、「栃木県教育振興基本計画2025ーとちぎ教育ビジョンー」において、児童生徒が、社会的自立に向けて、自ら課題を発見し、その解決のための適切な行動を自ら考え、自己選択と自己決定を行いながら、様々な人々と協働し、責任をもって行動できる力を身に付けられるよう、「自己指導能力を育む児童・生徒指導の充実」を基本施策の一つに掲げ、その主な取組の一つとして、「集団の中で学ぶ」という学校教育の特質を生かして児童生徒一人一人を成長させるという視点に立ち、それぞれの学級を「学びに向かう集団」に高めながら、児童生徒が自らの力で様々な不適応を解消し意欲的に学習活動に取り組めるよう指導・援助していく「学業指導」を推進してきたところです。

そのような中、近年、学校や児童生徒を取り巻く環境が大きく変化し、いじめや不登校等、児童・生徒指導上の諸課題が複雑化、深刻化している状況を踏まえ、各学校においては、引き続き保護者や地域、関係機関等と緊密に連携して一つ一つの課題に対応するとともに、児童生徒一人一人が社会的自立を図っていくことができるよう、全ての教育活動の基盤として重要な意義を持つ児童・生徒指導の機能を改めて見つめ直し、学校全体で児童・生徒指導の一層の充実を図っていく必要があります。

そこで、本資料では、平成24年3月に発行した教師用指導資料「学業指導の充実に向けてー学業指導を全ての教職員が進めるためにー」の改訂版として、児童・生徒指導の一つの方法・考え方である学業指導が、児童生徒の自己指導能力の獲得を支えることを目的とした全ての教職員による全ての児童生徒を対象とした指導・援助であることや、組織的に学業指導を進めていくことの意義等を示しました。

本県の児童生徒一人一人が将来に夢や希望をもち、安心して学校生活を送ることができるよう、本資料の活用を通じて、教職員一人一人が、日々の児童生徒との関わりなどの大切さを改めて認識するとともに、各学校において、児童生徒を中心に据え、組織的に学業指導が進められていくことを期待しています。

最後に、本資料の作成に当たり、藤平敦委員長をはじめ、児童・生徒指導推進委員会委員の皆様にご尽力いただきましたことに心から感謝申し上げます。

令和7(2025)年3月

栃木県教育委員会教育長 阿久澤 真理

「学業指導の充実に向けて」の改訂の趣旨

県教育委員会が平成21年から推進している「学業指導」は、文部省（現在の文部科学省）が昭和48（1973）年に示した「学業指導」の考え方を新たに定義づけた、児童・生徒指導の一つの方法・考え方であり、県教育委員会は、「あなたは、学業指導を知っていますか！」（平成21（2009）年県教育委員会）をはじめとする教師用指導資料を作成・配布するなどして学業指導の推進に取り組んできました。

その後、「学業指導の充実に向けてー学業指導を全ての教職員が進めるためにー」（平成24（2012）年）、「学業指導」実践事例集（CD）（平成26（2014）年）を作成し、配布しました。それ以降、学校や児童生徒を取り巻く環境が変化し、様々な困難や課題を抱える児童生徒が増加しています。そのため、各学校では、全ての教職員が、児童・生徒指導上の課題一つ一つにきめ細かに対応するだけでなく、児童生徒一人一人が社会的自立を図っていくための日々の児童生徒との関わりや意図的・計画的な働きかけの大切さを認識するとともに、その効果や課題を検証しながら改善を図っていくことで、児童・生徒指導の一層の充実を図っていく必要があります。

そこで、本資料では、これまで作成・配布した教師用指導資料の内容を生かしながら、学業指導が全ての教職員による全ての児童生徒を対象とした指導・援助であることやPDCAサイクルで組織的に学業指導を進めていくことの意義等を示すこととしました。

なお、令和4（2022）年12月に改訂された生徒指導提要では、児童生徒が成長・発達する主体、教職員が児童生徒の成長・発達を支える存在として明確に位置づけられるとともに、全ての児童生徒の発達を支える働きかけを、学習指導や特別活動等と関連付けるなどして日常的な教育活動を通じて行うことが強調されました。このような視点は、学業指導の意義や進め方と合致するものです。

～ 文部省（現在の文部科学省）の「学業指導」～

「学業指導とは、学校における教育活動の全体において、ひとりひとりの生徒が意欲的に進んで学習に取り組み、みずからの学業生活の改善と向上を図るよう指導・援助することであるといえよう。」

- ・ 生徒指導資料第9集「中学校における学業指導に関する諸問題」

(昭和48(1973)年 文部省)

- ・ 生徒指導研究資料第4集「高等学校における学業指導に関する諸問題」

(昭和48(1973)年 文部省)

～ 栃木県教育委員会の「学業指導」～

「学業指導とは、それぞれの学級を「学びに向かう集団」に高めながら、児童生徒一人一人が自らの力で不適応を解消し社会性を身に付けたり、意欲的に学習活動に取り組んで学力を向上させたりして自己実現(社会的自立)を図っていくための指導・援助のことです。」

※ 生徒指導提要(平成22年3月)のコラム(18ページ)に「学業指導」の取組」として紹介されています。

・ 教職員用リーフレット

「あなたは、学業指導を知っていますか！」
(平成21(2009)年 栃木県教育委員会)

あなたは、学業指導を知っていますか!

【学びに向かう集団づくりのために】

- 1 関係意識の高い学級づくり
 - 一人一人が関係から認められていると感じる活動環境を整える。
 - 個別でできることと共通の目標をより工夫する。
 - できる子どもたちの発想に基づき活動を取り入れる。
 - ほかの児童生徒も関係に参画させる。
- 2 規範意識の高い学級づくり
 - 約束・規範を守るためのルールを明確にする。
 - 関係性(自分)が公平であることと規範をおしえて学ぶ。
 - 子どもたちが自ら約束を決め、協力して実行できるように工夫する。
- 3 互いに高め合える学級づくり
 - 全員が参加して学級の目標を設定する。
 - 関係性(自分)が公平であるから、高め合えるように関係を工夫する。
 - 授業中・課外活動の活性化を図る。
 - 互いに夢や目標を語り合う機会や機会を設ける。

【子どもが意欲的に取り組む授業づくりのために】

- 1 自信をもたせる授業
 - 認める・ほめる、励ます機会を定期的に設定する。
 - 授業中や学習の過程でしほめる機会を積極的に取り入れる。
 - 時には思いどおりにならない体験をさせる。
 - 自分で選択・決定する機会を授業毎に設定して設定する。
- 2 コミュニケーション能力をほぐす授業
 - 相手の話を聴きに目を向けながら話を聴かせる活動を取り入れる。
 - 話し合う機会を設定する。
 - 子ども同士が教えあう活動を積極的に設定する。
 - 話し言葉、表現力を伸ばすために、自己表現・発表機会を設ける。
- 3 一人一人の実現に配慮した授業
 - 毎日、授業や課外生活を振り返る機会を設ける。
 - 教師指導を個別・継続的に実施する。
 - 学習や生活の課題に対して継続的に指導・援助体制を整える。

各学校において、あらゆる教育活動をおして学業指導の充実に取り組みしましょう

・ 教師用指導資料

「学業指導の充実に向けて」

—学業指導を全ての教職員が進めるために—

(平成24(2012)年 栃木県教育委員会)

学業指導の充実に向けて

—学業指導を全ての教職員が進めるために—

平成24年3月
栃木県教育委員会

本資料の内容や活用上の留意事項等

1 資料の内容

- 学業指導の説明として、学業指導のイメージ図を掲載し、学業指導の2本の柱である「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の内容等を示しました。また、「集団づくり」と「授業づくり」それぞれについて、3つの視点とポイント、それぞれのポイントに沿った取組事例を示しました。
- PDCAサイクルで組織的に学業指導を進めていく考え方を示すとともに、関連する教師用指導資料や、「学業指導応援チーム派遣事業」の実施校における取組を紹介しました。
- 全体を通して児童生徒が主語となる文章の構成に努めました。また「2 学業指導の視点とポイント及び取組事例ー学びに向かう集団づくりー」、(7ページから40ページ)、「3 学業指導の視点とポイント及び取組事例ー子どもが意欲的に取り組む授業づくりー」(41ページから72ページ)における取組事例では、各取組を進めた結果として期待される児童生徒の言葉を事例のタイトルにしました。
- 目次の中で下線のある見出しについては、クリックすることで該当するページに飛ぶことができます。また、7ページ「2 学業指導の視点とポイント及び取組事例ー学びに向かう集団づくりー」、41ページ「3 学業指導の視点とポイント及び取組事例ー子どもが意欲的に取り組む授業づくりー」では、各取組事例の2ページ目の右下「」をクリックすると、元のページ(7ページ、41ページ)に戻ることができます。同様に、76ページから124ページ「令和5・6年度「学業指導応援チーム派遣事業」の実施校における取組」及び各コラムのページでは、最終ページの右下「」をクリックすると、目次に戻ることができます。
- 本資料作成に当たって参考にした資料の中には、資料名をクリックすることで、該当する資料を閲覧することができます。

2 活用上の留意事項

- 本資料に掲載した取組事例の中には、すでに多くの学校で実施されているものも含まれていることが考えられますので、本資料を参考に、児童生徒の実態を踏まえながら、現在実施している取組を改めて見直し、意図的・計画的かつ組織的に進めましょう。
- 本資料に掲載した取組事例の実施に当たっては、児童生徒に期待する姿や、「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の取組を通じて、児童生徒が身に付けていくことが期待される資質・能力を日頃から教職員間で共有し、児童生徒の発達段階や学級(ホームルーム)集団の実態等に応じて、活用する取組事例を選択したり組み合わせたりするなどして自校化に努めましょう。

3 資料の主な活用例

- 教職員の指導力向上を図るための参考資料とし、校内研修会等において活用する。
- 学校経営、学級(ホームルーム)経営、児童・生徒指導体制等の改善・充実等を図るための参考資料とし、学校の諸計画の作成等に活用する。

目次

1 学業指導

P1

- 学業指導の定義
- 学業指導の目的

〔コラム〕「学業指導と発達支持的生徒指導」

- 「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」
- 「集団づくり」と「授業づくり」の相互の関連を意識した一体的な取組
～ 学業指導の担当者は、「全ての教職員」です! ～

2 学業指導の視点とポイント及び取組事例

P7

- 学びに向かう集団づくり -

- 学びに向かう集団づくり
- 帰属意識の高い学級づくり

〔コラム〕「学業指導と道徳教育」

- 規範意識の高い学級づくり

〔コラム〕「学業指導と人権教育」

〔コラム〕「学業指導といじめの問題」

- 互いに高め合える学級づくり

〔コラム〕「学業指導と特別活動」

3 学業指導の視点とポイント及び取組事例 P41

- 子どもが意欲的に取り組む授業づくり -

- 子どもが意欲的に取り組む授業づくり
- 自信をもたせる授業づくり
- コミュニケーション能力を育む授業づくり

[コラム] 「学業指導と学習指導」

[コラム] 「学業指導と幼児教育」

- 一人一人の実態に配慮した授業づくり
- [コラム] 「学業指導と特別支援教育」

4 サイクルで進める組織的な「学業指導」 P73

- サイクルで進める組織的な「学業指導」
- 令和5・6年度「学業指導応援チーム派遣事業」の実施校における取組
 - ① 宇都宮市立横川中央小学校
 - ② 日光市立下原小学校
 - ③ 矢板市立矢板小学校
 - ④ 足利市立青葉小学校
 - ⑤ 益子町立七井中学校
 - ⑥ 下野市立国分寺中学校
 - ⑦ 那須塩原市立黒磯中学校
 - ⑧ 栃木県立宇都宮南高等学校
 - ⑨ 栃木県立小山高等学校
 - ⑩ 栃木県立益子特別支援学校 高等部
- 教師用指導資料「サイクルで進める組織的な取組」及び解説資料

5 学業指導に関連する主な指導資料 P136

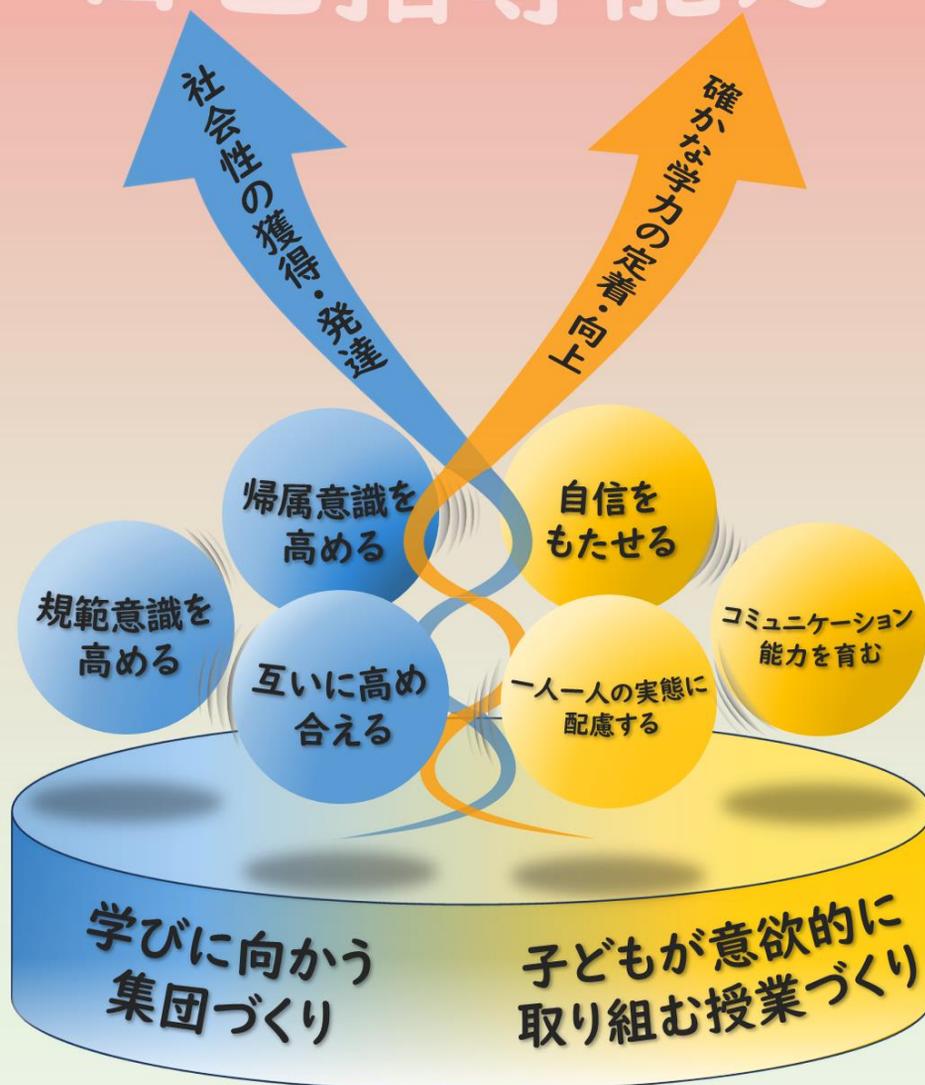
6 主な参考文献 P137

7 児童・生徒指導推進委員会委員 P139

Ⅰ 学業指導

自己実現
(社会的自立)

自己指導能力



学業指導は、「集団の中で学ぶ」という学校教育の特質を生かして、児童生徒一人一人の成長や発達を支えるという考え方に基づく指導・援助です。

学業指導の定義

学業指導とは、全ての教職員が全ての児童生徒を対象として、「学びに向かう集団づくり」（学級（ホームルーム）での活動等における指導・援助）と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」（教科等の指導における指導・援助）の相互の関連を意識しながら一体的に進めていく指導・援助のことです。

～ 学びに向かう集団 ～

児童生徒が、ルールやきまりを守って安心して生活し、互いに支え合い高め合う関係の中で所属感や連帯感を感じる居心地のよい集団

～ 子どもが意欲的に取り組む授業 ～

児童生徒が、温かい人間関係や学びやすい環境の中で意欲的に学び合い、「できた」、「分かった」という喜びや達成感を味わえる授業

学業指導の目的

学業指導は、児童生徒一人一人が、自己理解・他者理解を深め他者との関わり等を通じて社会性を身に付けたり、意欲的に学習活動に取り組み確かな学力を身に付けたりして、自己実現（社会的自立）を図っていくことができるよう、児童生徒の自己指導能力の獲得を支えることを目的としています。

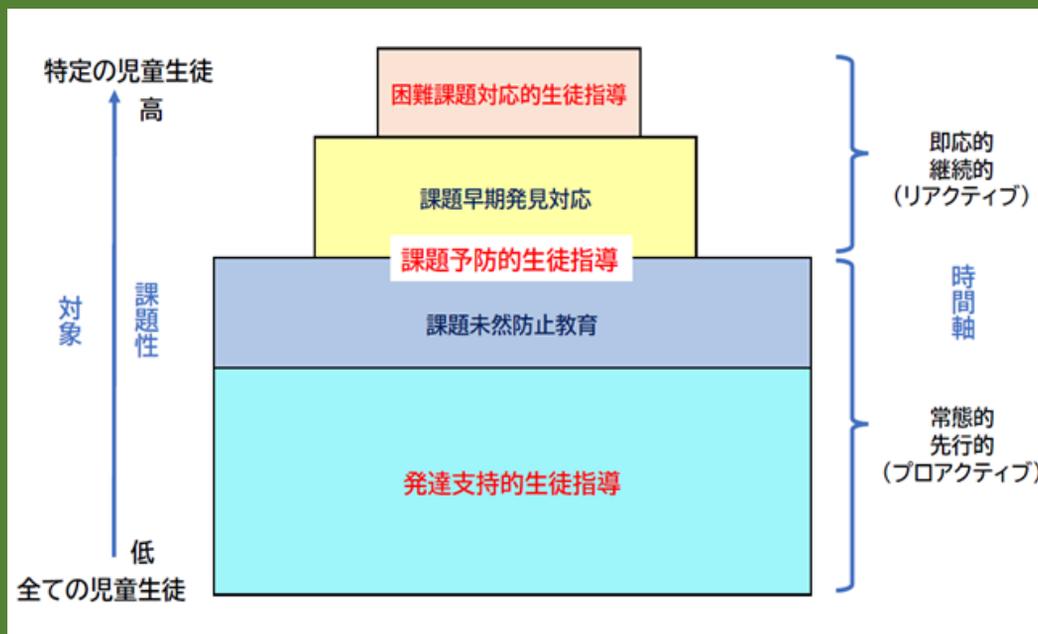
学業指導と発達支持的生徒指導

令和4(2022)年12月に改訂された生徒指導提要では、生徒指導の構造として、「2軸3類4層」の重層的支援構造が示され、この内、「発達支持的生徒指導」は、児童生徒が自発的・主体的に自らを発達させていくことが尊重され、全ての児童生徒を対象として、日々の児童生徒への関わり、授業や学校行事等を通じた働きかけを大切にする指導・援助とされています。

そして、学業指導は、全ての児童生徒を対象に、児童生徒一人一人が自ら自己実現(社会的自立)を図っていくために行う指導・援助であり、また、「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」を相互の関連を意識しながら一体的に進めていくものです。

このように、発達支持的生徒指導と学業指導は、ともに、児童生徒が自ら発達していくのを教職員が支えていくという視点に立つものであり、全ての児童生徒の発達を支える働きかけを学級(ホームルーム)における活動や授業等における指導と関連させて進めていく指導・援助なのです。つまり、学業指導の取組を進めていくことは発達支持的生徒指導の充実につながっていくのです。

※ 生徒指導の重層的支援構造(「生徒指導提要」 令和4(2022)年12月 文部科学省)



「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」

児童生徒が、ルールやきまりを守って安心して生活し、互いに支え合い高め合う関係の中で所属感や連帯感を感じている「学びに向かう集団」では、児童生徒一人一人の様々な活動への意欲が高まるため、児童生徒は授業にも意欲的に取り組むようになります。

しかし、授業は、「学びに向かう集団」ができあがってから行われるものではありません。日々の授業を含めた学級（ホームルーム）における活動等を通して学級（ホームルーム）集団はつくられていきます。つまり、授業における学習活動も集団づくりの場になっているということです。そのため、教職員は、授業は児童生徒が一日の学校生活の中で最も長い時間を共有する場面であることを踏まえ、授業における学習活動が集団づくりに影響を与えることを意識する必要があります。

なお、集団への働きかけの過程においては、発達段階や状況に応じて教職員主導による指導が必要な場面はあります。しかし、教職員主導による指導とは、教職員による一方的な指導を意味するものではありません。児童生徒一人一人が、それぞれの個性、よさや可能性を互いに生かし合い伸ばし合うことができるよう指導・援助していくことを通じて、結果として集団が発展していきます。

したがって、「集団づくり」と「授業づくり」の取組を進めていくに当たっては、教職員は、児童生徒への理解を深め、信頼関係を構築するとともに、学級（ホームルーム）集団の実態を踏まえ児童生徒が互いの個性や多様性を認め合う雰囲気醸成するなど、日頃から児童生徒一人一人が安心して学校生活を送ることができる環境づくりに努めることが大切です。そして、教職員自身も児童生徒に安心感を与える環境を構成していることを意識し、日頃から自分の発言や振る舞い等に注意を払う必要があります。

「集団づくり」と「授業づくり」の相互の関連を意識した一体的な取組 ～ 学業指導の担当者は、「全ての教職員」です! ～

以下の2つの事例は、学級（ホームルーム）担任による「集団づくり」の取組、教科担任による「授業づくり」の取組、そして、その後の児童生徒の姿をまとめたものです。

〔事例1〕 学級（ホームルーム）担任による「集団づくり」の取組

子どもたちが主体となって学校行事を運営することができるよう、学級活動（ロングホームルーム）の時間を活用して、定期的に話合いの場を設定してきました。その後、子どもたちは少しずつ友達の前で自信をもって発言できるようになり、学校行事の役割分担を検討し始めました。また、学年会議では、教科担任の先生方から、子どもたちが以前に比べて授業中のグループでの話合いや発表に積極的に参加するようになってきたと報告がありました。



〔事例2〕 教科担任による「授業づくり」の取組

子どもたちが自分の考えの幅を広げたり深めたりすることができるよう、授業の中で定期的に友達同士で学び合う場を設定してきました。先日実施したアンケートでは、「友だちが私の考えを認めてくれた」などと回答する子どもたちが増えてきました。また、学年会議では、担任の先生から、学級活動（ロングホームルーム）での話合いや休み時間等の会話でも、子どもたちが互いの意見を尊重し合ったり、友だちのよさを認め合ったりする姿が見られるようになったと話していました。



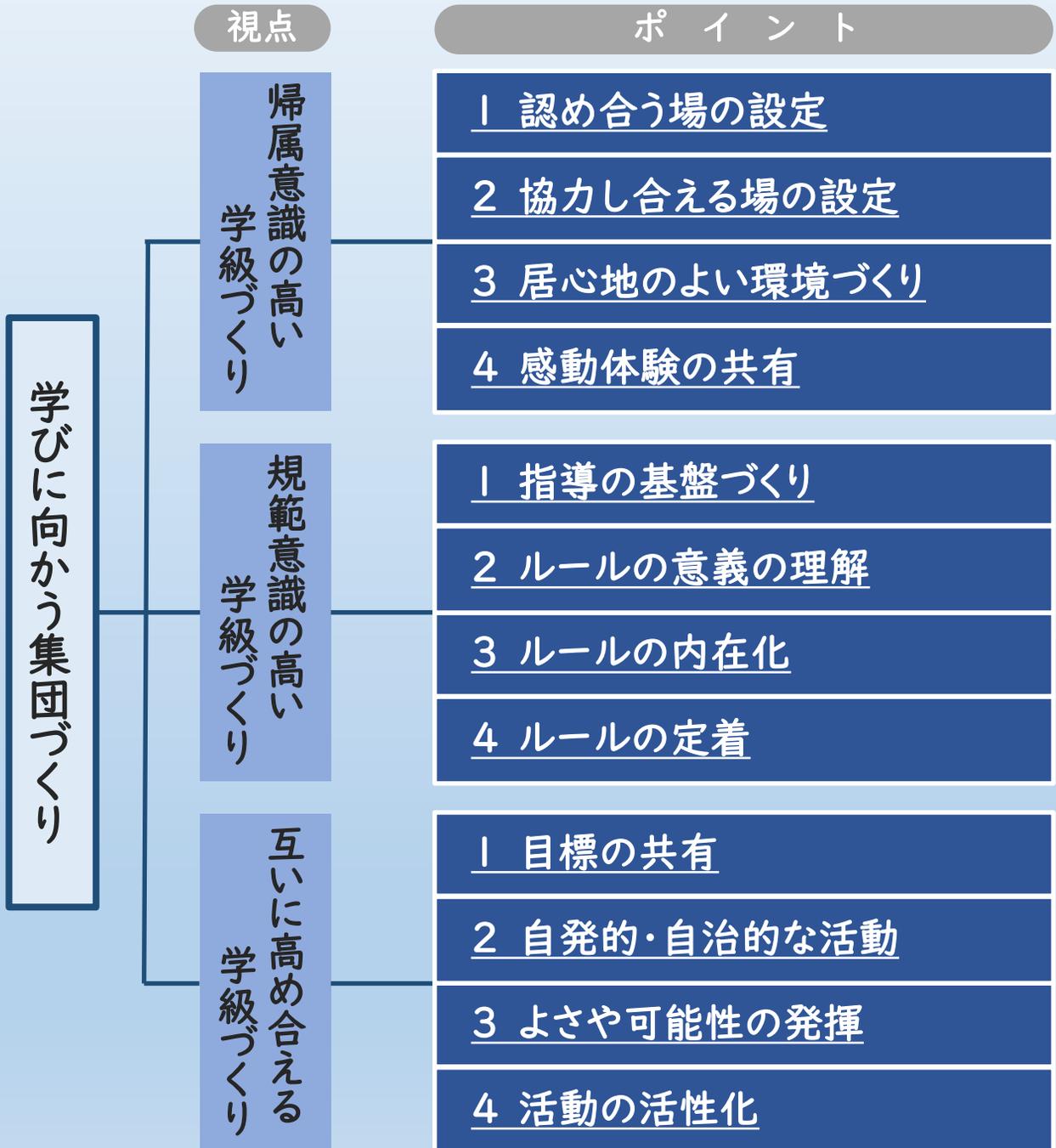
これらの事例では、「集団づくり」の取組を進めた結果、授業中の児童生徒の姿にも変化が表れ、また、「授業づくり」の取組を進めた結果、学級活動（ロングホームルーム）の時間等の児童生徒の姿にも変化が表れました。このことは、「集団づくり」と「授業づくり」の取組が相互に作用する関係にあることを示しています。

しかし、学業指導は、これらの事例のように、学級（ホームルーム）担任と教科担任が、それぞれの立場で「集団づくり」と「授業づくり」を進めるだけでは十分ではありません。中学校（義務教育学校後期課程）や高等学校では、学級（ホームルーム）担任と教科担任が、それぞれの立場で取組を進めていく中で気付きを共有し、取組の改善を図りながら「集団づくり」と「授業づくり」の取組を一体的に進めていくことが必要です。また、小学校（義務教育学校前期課程）や特別支援学校では、学級（ホームルーム）担任が、日頃から集団の雰囲気と学習活動が密接に関係していることを踏まえて授業や学級（ホームルーム）活動等を進めていることが多いと思いますが、学年の教職員等との情報交換を通じて集団の状況や実態を多角的に把握しながら、「集団づくり」と「授業づくり」の相互作用を意識し、両方の側面から意図的に取組を進めることが大切です。

このように、「集団づくり」は学級（ホームルーム）担任だけ、「授業づくり」は教科担任だけが進めていくものではありません。すなわち、全ての教職員が、「集団づくり」と「授業づくり」の相互の関連を意識して両方の側面から一体的に取組を進めていく「学業指導の担当者」なのです。

2 学業指導の視点とポイント及び取組事例

- 学びに向かう集団づくり -



学びに向かう集団づくり

集団の状況は、児童生徒一人一人の成長に大きく影響を与えます。そのため、教職員が個に応じた指導・援助を行うとともに、集団づくりに向けた具体的な働きかけを進めていくことが必要です。

なお、ここでの「集団づくり」は、児童生徒一人一人への配慮を欠いた集団指導を意味するものではありません。児童生徒一人一人が、それぞれがもつ個性、よさや可能性を集団の中で互いに生かし合い伸ばし合うことができるよう、教職員が一人一人の児童生徒理解に基づいて指導・援助を行い、集団を育成し発展させることを意味しています。

視点1 帰属意識の高い学級とは

児童生徒一人一人が所属感や連帯感を感じる居心地のよい学級です。

このような学級では…

児童生徒は、集団の一員であることに誇りを持ち、一人の人間として大切にされ、集団の役に立っていたり必要とされていたりすることに喜びを感じています。

視点2 規範意識の高い学級とは

児童生徒が、集団生活におけるルールやきまりの意義を理解し、自主的に守りながら生活をしている学級です。

このような学級では…

児童生徒は、良好な人間関係の中で、安心して自分の意見を発言したり、友達の意見や考えを認め合ったりしています。

視点3 互いに高め合える学級とは

児童生徒が互いに支え合い高め合うことができる学級です。

このような学級では…

児童生徒は、互いを尊重し合い、よさや可能性を発揮しながら生活し、励まし合って意欲的に様々な活動に取り組んでいます。

帰属意識の高い学級づくり

[ポイント1]

認め合う場の設定

- ① 所属感の醸成 ② 自由で温かな雰囲気づくり

児童生徒が「このクラスの一員として認められている、クラスの役に立っている」と感じられる場を設定することが大切です。

友だちとの関わりを楽しむ活動や一人一人に役割がある活動を工夫しましょう。

[ポイント2]

協力し合える場の設定

- ① 連帯感の醸成 ② 主体的な活動の場の設定

児童生徒が団結し、協力しながら一つのことに取り組むことの喜びや楽しさを感じられる体験の場等を設定することが大切です。

児童生徒が、主体的に取り組める場や機会を工夫しましょう。

[ポイント3]

居心地のよい環境づくり

- ① 安心して生活できる環境づくり ② 教室環境の整備

児童生徒が安心して生活し、様々な活動に意欲的に取り組むことができる環境を整えることが大切です。

教職員と児童生徒、児童生徒同士の信頼感に支えられた人間関係づくりや、整えられた温かみのある教室環境づくりに努めましょう。

[ポイント4]

感動体験の共有

- ① 目標の共有化 ② 学校生活の充実 ③ 学校行事等の充実

児童生徒が、学級(ホームルーム)に愛着や誇りを感じることができるよう意図的な働きかけを行うことが大切です。

学校行事等を活用し、目標に向かって、協力して一つのことをやり遂げるような体験を共有できる場や機会を工夫しましょう。



みんなに知ってもらえました!



子どもたちが「クラスの一員として認められている」と感じるクラスにしていきたいんです!



スピーチ活動を通じて、友達のよさなどを伝え合う活動を実施してはどうですか?

1 概要

児童生徒がスピーチを行い、友達からの質問に対応します。また、スピーチをしたり友達の質問に対応したことへの感想を話したりします。

2 教職員の働きかけ

- ① 児童生徒の発達段階や学校行事の時期等に応じて、スピーチのテーマを検討します。
- ② スピーチを実施する前に、活動の目的、テーマや発表する順番を説明します。また、スピーチの方法、スピーチを聴くマナー等について指導します。
- ③ 朝の会や帰りの会(ショートホームルーム)等を実施します。
- ④ スピーチ終了後、スピーチを聴いた児童生徒が質問したり、感想を伝えたりする場を設定します。
- ⑤ スピーチをした児童生徒が、スピーチをしたことや、友達の質問や感想を聴いて感じたことなどについて話す場を設定します。
- ⑥ スピーチをした児童生徒に対して励ましのコメントや感想を伝えます。また、クラス全体に対して、スピーチの聴き方などについて感想を伝えます。

司会を日直の児童生徒に任せるのもいいですね!

司会の児童生徒がスピーチをした友達にインタビューすると、スピーチをした友達は感想を話しやすくなり、クラス全体で互いに認め合う雰囲気生まれます。



テーマ設定の工夫

実施時期に応じて、児童生徒が「自分のよさをわかってもらえた!」と感ずることができるようスピーチのテーマを設定しましょう。

〔スピーチのテーマの例〕

- ・ 自己紹介(趣味や特技、好きな食べ物やスポーツ等)
- ・ 学校行事でがんばったこと
- ・ 毎日努力していること(スポーツや勉強、家庭での手伝い等)
- ・ このクラスのいいところや好きなどころ
- ・ クラスの友だちに言われてうれしかった一言
- ・ 「ありがとう」と伝えたい人(クラスの友達等)

配慮が必要な児童生徒への支援

- ・ 実施前に、友達の前で話すことが苦手な児童生徒に声をかけるなどして不安を和らげましょう。
- ・ スピーチの原稿作成等を手伝ったり、仲の良い友達と一緒にスピーチの内容を考える場を設定したりするなどの支援も検討しましょう。

ICT機器を活用した活動例

○ スライドの作成

児童生徒が写真やイラスト等を示しながらスピーチできます。

○ コメント機能の活用

質問や感想を発言できなかった児童生徒が、スピーチをした友達に質問や感想を伝えることができ、また、スピーチをした児童生徒も様々な感想等を知ることができます。

○ 動画の撮影・活用

- ・ 友達の前で話すことが苦手な児童生徒が、自分のスピーチをあらかじめ撮影することで、当日は動画を通じて活動に参加することができます。



- ・ 担任等がスピーチをする児童生徒のタブレットを使って撮影することで、スピーチをした児童生徒が自分のスピーチを振り返り、次回に生かすことができます。また、担任等が、保護者面談等の機会に、保護者に動画を見せながら、学校生活の様子等を説明することができます。





みんなでいいクラスにしよう!



子どもたちが互いに協力し合って生活できるクラスにしていきたいんです!

友達によさに気づいて、互いに認め合う活動を実施してはどうですか?



1 概要

児童生徒が、よりよいクラスにするための取組を考え、係活動を通じて、クラス全員が参加できる取組を企画・運営します。

2 教職員の働きかけ

- ① クラスの問題点やよりよいクラスの姿について話し合う場を設定します。
- ② クラスの係活動を通じて、よりよいクラスにするための取組を実施することについて話し合う場を設定します。
- ③ 学級(ホームルーム)委員長等が司会となって、係ごとに、それぞれの係の特徴を生かして実施できる取組を検討し、発表する場を設定します。
- ④ 各係の児童生徒がクラスに対して取組を紹介するためのチラシ等を掲示できるように、掲示板のスペースを確保します。
- ⑤ 各係の活動を観察し、活動状況を踏まえ助言します。
- ⑥ 取組の実施後、児童生徒が互いの取組について感想を伝える場や、係ごとに取組の改善に向けて話し合う場を設定します。

どの児童生徒も係ごとの話合いに参加できるように、話合いのグループ編成を工夫しましょう!

係や委員会等の所属の違いに関係なく、互いに協力し合おうとする雰囲気づくりにつながります。



児童生徒同士をつなぐための工夫

児童生徒がそれぞれの係の取組を考える際、他の係と協力して実施することについても助言しましょう。各係の役割や仕事の内容が書かれた係の紹介カードや、児童生徒一人一人の特技や部活動等が記載された自己紹介カードを教室に掲示しておく、児童生徒が互いに協力を依頼しやすくなります。

児童生徒の発想を大切にする関わり

児童生徒が考えた取組は、「よりよいクラスにしたい!」という気持ちに基づくものです。児童生徒の主体的な取組が実現されるよう、危険が伴うような活動等を除き、児童生徒の発想を尊重しながら取組を支援しましょう。

〔児童生徒の主体的な取組の例〕

- ・ 学習係による「まとめの問題と解説」の作成
- ・ レクリエーション係による「クラス遊び」の企画・運営
- ・ 体育係による「早く走るコツ」に関する動画の作成・配信

ICT機器を活用した活動例

○ 動画の作成・配信、コメント機能の活用

係の児童生徒が資料や動画を作成し、クラスに配信することができます。また、係以外の児童生徒が、係の児童生徒に対して質問や感想を伝えることができます。

○○さんの投稿

学習係が単元のまとめ問題を作成しました!



授業の中で、私たちが大切だと思うところを問題にしましたので解いてみてください。提出してもらった解答は採点してお返しします。分からないところは解説します!

問題1 円の面積の公式を次の中から選びましょう。

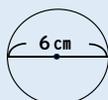
- ア 半径×円周率 イ 半径×2×円周率
ウ 直径×円周率 エ 半径×半径×円周率

答え _____

問題2

次の図形の面積を求めましょう。

式 _____



答え _____

○○さんの投稿

徒競走を速く走るコツを動画にまとめました!



運動会に向けて、学習係とイベント係が協力して作ったのでぜひ観てください!
また、○日には走り方教室も開く予定です!

速く走るのコツ
練習の仕方

クラスメイトのコメント 30件

初めてコツを知りました。ありがとう!! 

この練習なら私にもできそう! 走り方教室も楽しみ! 





私の教室は居心地がいい!




子どもたちが安心できる温かみのある教室にしていきたいんです!



子どもたちが掲示物の内容やデザインを考えて作成する活動を実施してはどうですか?

1 概要

児童生徒が、季節等に応じて、自分たちの思いを込めた装飾や掲示物を作成するだけでなく、それらの整理等も行います。また、担任等は日頃から児童生徒が自分の行動の順序等が分かるよう物品や掲示物を配置します。

2 教職員の働きかけ

- ① 児童生徒一人一人の状況に配慮しながら、児童生徒がわかりやすく、使いやすいよう物品を配置し、また、必要な掲示物を掲示します。
- ② 児童生徒が作成した装飾や掲示物を掲示できる場所を確保します。
- ③ 学級(ホームルーム)委員長等が司会となって、児童生徒が季節等に応じた装飾や掲示物の種類や内容、装飾、役割分担等について話し合う場を設定します。
- ④ 児童生徒が装飾や掲示物を作成したり掲示したりする場を設定します。
- ⑤ 児童生徒が装飾や掲示物の整理整頓や入替えができるよう、時期や状況に応じてクラス全体に投げかけます。

係の児童生徒等だけでなく、クラス全員が装飾や掲示物の作成に参加できるようにするといいですね!

児童生徒が認め合い支え合える関係も教室環境の一つです。装飾や掲示物の作成過程において、児童生徒が互いに協力し合う場を設定しましょう。



児童生徒にとってわかりやすい環境づくり

温かみのある友達との関係はもちろん、児童生徒が何をどのようにすればよいのかが分かる環境は、児童生徒の安心感を高め、クラスに居心地のよさを感じるようになります。掲示物や物品の配置、黒板の使い方等を工夫し、児童生徒にとってわかりやすい環境を整備しましょう。

〔「わかりやすさ」を高める掲示の例〕

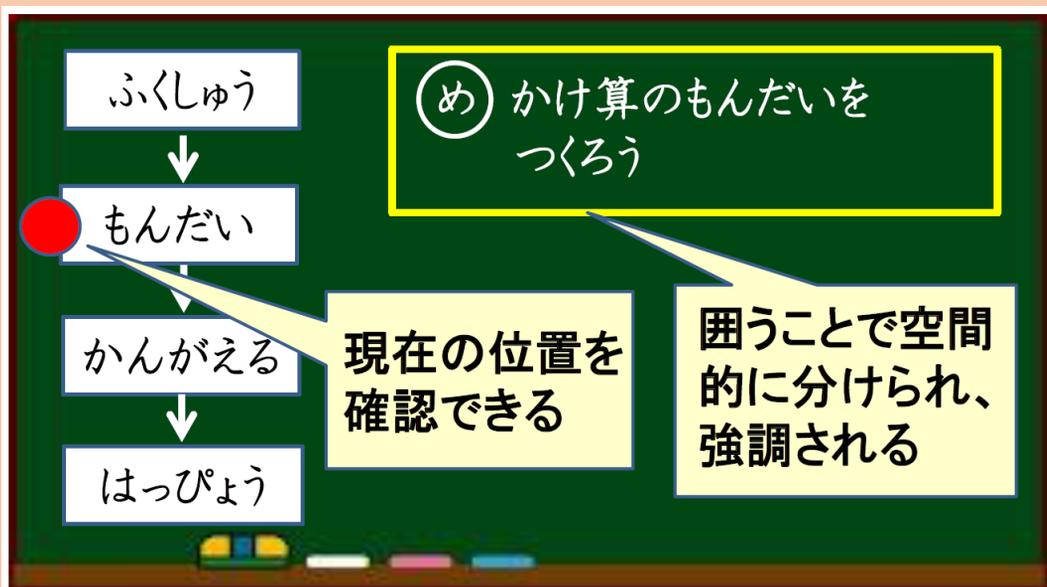
- ・ 前方にはクラスの目標や時間割等、必要最小限のものを掲示する。
- ・ 後方や側面（廊下側）に掲示する場合には、掲示物の名前（給食当番表、進路状況等）を明示して掲示する。
- ・ 窓際やロッカーの上等に物品を配置する場合には、関連する道具等も同じ場所に配置する。

〔授業の中で「わかりやすさ」を高める視点〕

- ・ 全体の見通しを伝える
- ・ 指示は短く、明確に伝える
- ・ 言葉だけでなく、視覚的な手がかりも添える



※ 視覚的に配慮した板書の例





行事だ、みんなでがんばろう!



子どもたちが愛着や誇りを感じるクラスにしていきたいんです!

学校行事に向けて、子どもたちが目標や計画を立て、協力して準備を進める活動を実施してはどうですか?



1 概要

児童生徒が、学校行事の目的や意義を踏まえ、クラスの目標等を設定し、実行委員等を中心に計画的に準備を進めます。

2 教職員の働きかけ

- ① 各学校行事の目的や意義等について説明し、担任等の思いを伝えます。
- ② 児童生徒が、学校行事の内容に応じた目標やスローガンについて話し合う場を設定します。
- ③ 児童生徒が目標やスローガンを共有し、必要な係や役割分担、練習の計画等について話し合う場を設定します。
- ④ 児童生徒が計画的に準備を進めることができるよう、準備や練習に必要な時間や場所を確保します。
- ⑤ 学校行事後、行事の結果に関わらず、準備や練習での児童生徒の様子等や、当日に至る過程を賞賛し、児童生徒が互いのよさやがんばりを認め合う場を設定します。

実行委員等の児童生徒が中心になって話し合いを進めるといいですね!

児童生徒一人一人がそれぞれのよさや持ち味を生かしながら役割を担うことがクラスの団結につながるなどについて伝えましょう。



目標等の設定に向けた話合いの工夫

実行委員等の児童生徒が話合いを進める際、児童生徒一人一人の思いを大切にしながら目標やスローガンを設定することができるよう、それぞれが考える時間、グループで話し合う時間、クラス全体で共有し話し合う時間等を確保するなど、話合いの方法について助言しましょう。

教室の雰囲気づくり

学校行事の内容に応じて、児童生徒が、目標やスローガンを掲示するだけでなく、クラスの旗、ポスター、シンボルマークを作成して掲示するなど、学校行事に向けた教室の雰囲気づくりを工夫しましょう。

〔掲示物等の例〕

- ・ クラスの目標やスローガン
- ・ クラスの旗
- ・ クラスのシンボルマークやキャラクター
- ・ 児童生徒が作ったお守り(配布)
- ・ 児童生徒が作った応援歌(合唱や歌詞の掲示)

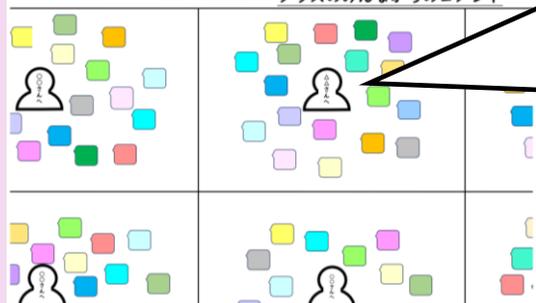
ICT機器を活用した活動例

○ ホワイトボード機能やコメント機能の活用

- ・ タブレットのホワイトボード機能やコメント機能を活用して、児童生徒が友達のよさやがんばりを認め合う活動を実施することができます。
- ・ 児童生徒は、学級(ホームルーム)活動の時間以外にも、休み時間や放課後等にコメントを入力することができます。また、それぞれのコメントをクラスで共有することができるため、児童生徒は、互いのよさやがんばり、準備から当日までクラス全体で取り組んできたことを改めて実感することができます。

校内合唱コンクール大会準優勝!

クラスみんなからのコメント



準優勝は悔しいけれど、仲よくなれてうれしいよ!これからもよろしくね!
○○○○

休み時間にも、練習を頑張っていたね。きれいな歌声だったよ!
○○○○

……
○○○○

△△さんへ

歌うことが得意でなかったけれど、励ましてくれたから頑張れたよ。ありがとう!
○○○○

……
○○○○

……
○○○○



学業指導と道徳教育

道徳教育は、自己(人間として)の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標にしており、児童生徒の人格のよりよい発達を目指し、教育活動全体を通じて行われるものである点において、児童・生徒指導と共通しています。

小学校(中学校)学習指導要領総則編(第6節)では、「特別活動における学級や学校生活における集団活動や体験的な活動は、日常生活における道徳的な実践の指導を行う重要な機会と場」とされ、「集団活動を通して身に付けたい道徳性」として、よりよい人間関係を形成し深めようとする態度、自分たちできまりや約束をつくって守ろうとする態度、自己のよさや可能性を大切に集団活動を行おうとする態度等が挙げられています。

また、高等学校学習指導要領総則編(第8章)では、「公共」、「倫理」及び特別活動について、「中核的な指導の場面として重視し、道徳教育の目標全体を踏まえた指導を行う必要がある」とされており、生徒指導提要では、高等学校における道徳教育を通じて身に付けることが期待される態度として、「主体性を持って様々な人々と協働して学ぶ態度を身に付けること」等が挙げられています。

コラム「学業指導と特別活動」(40ページ)にも記載したように、学業指導は、特別活動を主な指導・援助の場としています。また、上記の「集団活動を通して身に付けたい道徳性」等に挙げられている態度の中には、「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の取組を通じて期待される児童生徒の姿と共通するものがあります。そして、教職員と児童生徒及び児童生徒相互のコミュニケーションを通じた人間的なふれあいの機会が重視される道徳科の授業の学習の過程は、教職員が一人一人の児童生徒理解に基づき、児童生徒一人一人が、互いがもつよさや可能性を集団の中で生かし合い伸ばし合って、集団として高めていくように働きかける学業指導の考え方と通じています。

このように、学業指導は、道徳性の育成を直接的なねらいとするものではありませんが、児童生徒が道徳性を身に付けていくための一つの方法であると言えます。



規範意識の高い学級づくり

[ポイント1]

指導の基盤づくり

- ① ルールの整備・明確化
- ② 指導内容の共通理解
- ③ 計画的・継続的指導
- ④ 家庭との連携

児童生徒が安全かつ安心して生活できる環境をつくるのが大切です。
全教職員が、ルールやきまりの意義、指導内容を共有し、家庭と連携しながら指導を行いましょう。

[ポイント2]

ルールの意義の理解

- ① 教育活動全体を通じた指導
- ② 特別活動等との関連を図った指導

児童生徒が互いの存在を尊重し合い、安心して生活できるよう、教育活動全体を通して、ルールやきまりの意義について指導することが大切です。

学校行事や体験活動等の特別活動や、道徳教育との関連を図りながら意図的、計画的に指導しましょう。

[ポイント3]

ルールの内在化

- ① 自主的にルールを守る態度の育成
- ② 自らルールをつくる場の設定

児童生徒がルールやきまりの社会的意義を理解し、自主的に守ろうとする意識を醸成することが大切です。

発達段階に応じて、児童生徒自らルールやきまりをつくる場の設定を工夫しましょう。

[ポイント4]

ルールの定着

- ① 生活や学習のきまり等を共有する場の設定
- ② きまり等の点検や見直しを図る場の設定機会の工夫

児童生徒自ら学級（ホームルーム）全体の規範意識を高めていくことができるよう、ルールやきまりの定着を目指して指導することが大切です。

児童生徒が自ら設定したルールやきまりを共有し、点検や見直しを図る場の設定を工夫しましょう。



私たちのためのルールです!



子どもたちが学校生活のルールやクラスのきまりを守り、気持ちよく生活できるクラスにしていきたいんです!

先生方はもちろん、子どもたち、保護者が学校生活のルールやきまりの内容を理解する取組から始めましょう。



1 概要

教職員、児童生徒、保護者が学校生活のルールやきまりの内容を共有し、係の児童生徒が中心になってポスター等を作成し掲示します。

2 教職員の働きかけ

- ① 年度初めの職員会議等において、学校生活のルールの内容や意義を共有します。
- ② 始業式や保護者会等の機会を活用し、児童生徒や保護者に対して学校生活のルールの内容や目的について説明します。
- ③ クラスの児童生徒に学校生活のルールの内容や目的を説明します。
- ④ クラスのきまりを作ることの必要性やその内容について話し合う場や、クラス全員が学校生活のルールを意識して生活できるように掲示物を作成することについて話し合う場を設定します。
- ⑤ 児童生徒の生活の様子を観察し、ルールやきまりを守って生活している児童生徒を賞賛したり、ルールやきまりを再確認したりします。

学級（ホームルーム）委員長や生活委員等が中心になって話し合いを進めるといいですね!

児童生徒による話し合いを実施することで、児童生徒は学校や社会の様々なルールやきまりを自分たちのためのものとして意識できるようになります。



学級通信等を通じた保護者との連携

保護者が、学校生活のルールやきまりを理解し、家庭でも意識して声かけ等ができるよう、学級通信等を通じて、その内容や児童生徒が作成した掲示物、児童生徒の生活の様子等を積極的に発信しましょう。

〔「クラスのきまり」の保護者への周知の例(学級通信)〕

○年○組通信 5月号

クラスのルールをみんなで考えました!

4月のクラスの様子をみんなで振り返り、クラスのルールを作りました。

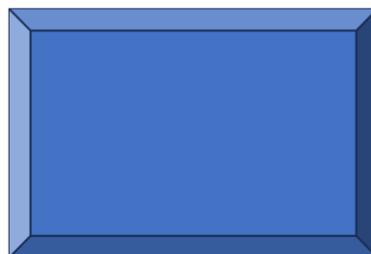
一人一人が○組のよいところ、改善したいところの意見を出し合い、よいところを更に伸ばすルールや、改善するためがあるとよいルールができましたので、ご家庭で話題に挙げてみてください。

なお、今回決まった○組ルールは、毎月みんなで振り返り、必要に応じて改善もしていく予定です。クラスのみんで考えていくことを大切にしていきたいと思えます。

○○さんが作成した
目当ての掲示物



話し合いの様子



!

学校行事等の事前指導の活用

学校行事や児童会・生徒会行事等は、児童生徒がルールやきまりの意義を理解し、守ったことを実感できる機会です。特に校外で実施する行事は、社会のルールを理解する機会です。事前指導において、それぞれの行事の目的に沿って、ルールやきまりの意義を具体的に説明し、実施後には、行事の中での児童生徒の様子について感想を伝えたり、賞賛したりしましょう。





上級生としてがんばりました!



子どもたちがお互いに思いやって生活するクラスにしていきたいんです!

子どもたちが下級生にルールやきまりを説明し、手本になって活動する場を設定してはどうですか?



1 概要

児童生徒が、縦割り班の全員が楽しめる活動を企画します。活動の中で、児童生徒は下級生に活動のルールを説明し、一緒に活動します。

2 教職員の働きかけ

- ① 児童生徒が縦割り班活動の内容や必要な係、下級生への説明方法等について話し合う場を設定します。
- ② 下級生でも安全に楽しく参加できる内容にすること、下級生にとってわかりやすい説明内容や方法等について助言します。
- ③ 活動の中で下級生を励ましたり、賞賛したりすること、そのための言葉や声かけの方法等について助言します。
- ④ 児童生徒が、下級生の様子を踏まえ、上級生として下級生のことを考えながら説明や援助をしたり、一緒に活動したりすることができたことなどについて賞賛します。

上級生が下級生に関わる場だけでなく、下級生が上級生と関わる場を設定することも大切です!

下級生が上級生に手紙やメッセージを通じて感謝の気持ち等を伝えることで、上級生も下級生もルールやきまりを守ることをさらに意識し、自覚を持って行動するようになります。



下級生の役割の設定

上級生が、下級生のための学年段階に応じた役割の設定について話し合う場を設定しましょう。活動の中で、上級生が、下級生がうまくできたことを賞賛したり、うまくできないことを手伝ったりすることで温かみのある関係が生まれるだけでなく、互いに自己有用感が高まります。

〔下級生の役割の例〕

- ・ レクリエーション等における制限時間の計測
- ・ 点数を競い合う活動における点数の表示
- ・ 清掃活動に必要な道具等の準備や片付け等

ICT機器を活用した活動例

○ プレゼンテーションソフトの活用

企画・運営を担当する上級生が、動画やイラストを用いてスライドを作成することができます。下級生は、活動の内容、ルールやきまりを視覚的にも理解し、楽しく活動に参加することができます。

〔縦割り班ウォークラリーの説明〕

縦割り班ウォークラリー

の説明

班長 ○○○○

スライドを見せながら活動の流れを説明します。

ウォークラリーの流れ

1. 縦割り班の教室に集合
2. 班ごとに担当するゲームの準備
3. 開会式
4. 班ごとにウォークラリー開始

動画を見せながら、担当するゲームの運営の仕方を説明します。

ゲームを運営の仕方を



動画で確認しよう





みんなのために気をつけよう!



子どもたちがルールやきまりの大切さを理解して、自主的にルールを守るクラスにしたいんです!

子どもたちが、クラスでの生活の問題点を考え、子どもたち自身できまりを作る活動をしてはどうですか?



1 概要

児童生徒が、日頃のクラスでの生活を振り返り、よりよいクラスにしていくためのきまりについて話し合い、クラス全体で共有します。

2 教職員の働きかけ

- ① クラスの目標を確認するなどして、現在のクラスが、児童生徒が目標としているクラスの姿になっているかどうかについて問いかけます。
- ② 児童生徒が日常生活を振り返り、クラスの中で困っていることや改善したいことなどについて話し合う場を設定します。
- ③ クラスの問題点を共有し、その解決に必要なきまりの内容、クラス全員がきまりを守るようになるための方法等について話し合う場を設定します。
- ④ 児童生徒一人一人がきまりの内容を意識して生活できるよう、係の生徒等が掲示物を作成したり、朝の会や帰りの会（ショートホームルーム）等の時間にクラスへ呼びかけたりする場を設定します。

クラスの問題点の内容に関係する係の児童生徒が話し合いの司会を務めることもできますね!

係の児童生徒が中心となって話し合いを進めることで、児童生徒一人一人がきまりを守るようになるだけでなく、係の児童生徒自身が主体的に活動するようになります。



児童生徒一人一人の状況に配慮した話合いの工夫

- ・ 児童生徒がクラスの問題点について話し合う場面では、児童生徒が問題点の原因を探るのではなく、困っている友達のためにクラスとしてできることを考えることができるよう、教師が関わるのが大切です。なお、話合い等を通じて、特定の児童生徒の行動により困っている児童生徒の存在を把握した場合には、教師が聴き取り等を通じて状況を把握し指導します。
- ・ クラスのきまりが設定されると、クラス全員がきまりを守ることを優先する雰囲気が生まれることがあります。教師は、日頃からクラス全員が意識できる内容にすること、結果としてよりよいクラスに変わっていくことが大切であることなどについて助言するなど、児童生徒一人一人の状況に配慮して取組を進めることが大切です。

〔教師の言葉かけの例〕

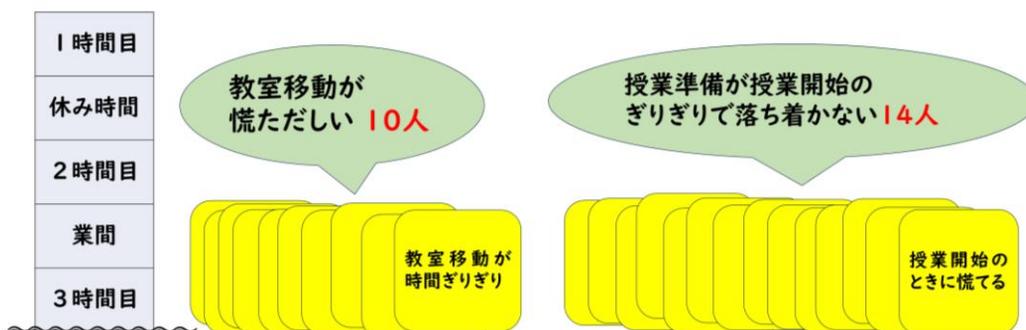
- ・ この話合いは、クラスの問題点を誰かのせいにするためのものではありません。みんなでできることを考えるためのものです。
- ・ クラス全員がきまりを守ることは大切です。しかし、一人一人がきまりを意識して生活することで、よりよいクラスになること、困っている友達が困らなくなることの方が大切です。
- ・ みんなが毎日意識して生活できるきまりになっていますか？

ICT機器を活用した活動例

○ ホワイトボード機能やコメント機能の活用

話合いを実施する前に、ホワイトボード機能やコメント機能を活用して、それぞれの児童生徒がクラスの問題点を回答することができます。また、教師がそれぞれの回答を集約することができます。友達の前では話しにくい場合も考えられますので、無記名で回答する方法も考えられます。

4月の学校生活を思い出して、改善が必要だと思うことを自由に書いてください！





もっといいクラスにしていこう！



子どもたちがよりよいクラスを目指して、自ら問題点を解決していこうとするクラスにしていきたいんです！

子どもたち自身がクラスの状況やきまりが守られているかどうかを点検する活動を実施してはどうですか？



1 概要

児童生徒が、クラスのきまりを守ることができたかどうか自己点検し、自己点検の結果を踏まえ、問題点の解決に向けた取組について話し合います。

2 教職員の働きかけ

- ① 学期末の時期等に、クラス目標等を踏まえ、児童生徒の成長の様子や、児童生徒に期待することなどについて思いを伝えます。
- ② 児童生徒がクラスの状況やクラスのきまりが守られていたかどうか、クラスのきまりによる効果等について話し合う機会を設定します。
- ③ 話し合いの結果を踏まえ、クラスのきまりを変更することや、新しいきまりを作ること、その内容等について場を設定します。
- ④ 児童生徒一人一人がきまりの内容を意識して生活できるよう、係の児童生徒等が掲示物を作成する機会や、朝の会や帰りの会（ショートホームルーム）等の時間にクラスに呼びかける場を設定します。
- ⑤ 次の学期末の時期等に、①から④の取組を進めます。

児童生徒がクラスのきまりを設定するだけではなく、きまりの効果を確かめることで、きまりがより実効的なものになりますね！

このようなPDCAサイクルで進める活動は、クラス全体の取組だけではなく、児童生徒一人一人が設定した学習等に関する目標に対する取組状況等を確認する場合にも応用できます。



児童生徒の振り返りを活用した関わりの工夫

学級（ホームルーム）活動や授業の中では、児童生徒が自分の行動や取組を振り返り、数値や文章で自己評価を行い、ワークシート等を提出する機会があります。そして、教師がワークシート等に記載するコメント（評価）は、児童生徒の行動や取組について改善点を伝えたり成長を促したりするものであるため、児童生徒が成長していくために重要な意味を持つものです。これは、学級日誌や生活ノート等も同様です。教師の具体的なコメント（評価）は、児童生徒の成長につながるほか、児童生徒の自己存在感の感受につながりますので、日頃から児童生徒の様子を観察や休み時間等の対話等を通じて、児童生徒一人一人のよさの把握に努めましょう。

〔振り返りを活用した関わりの留意点〕

- ・ ワークシート等に教職員のコメント（評価）を具体的に記載し、必ず返却する。
- ・ 児童生徒一人一人の行動や取組のよいところに着目してコメント（評価）する。
- ・ 児童生徒自身が課題として捉えていることや再度の失敗等を予防すべきことについては、問題点に着目してコメント（評価）する。
- ・ 教職員のコメント（評価）が児童生徒の成長につながることを意識し記載内容を検討する。

ICT機器を活用した活動例

○ チャット機能やコメント機能の活用

チャット機能等を活用し、児童生徒の振り返りや日頃の行動や取組等に対してコメント（評価）することができます。児童生徒とのやりとり等が残るため、児童生徒は日頃から教職員のコメント（評価）を意識して行動することができます。また、教職員も児童生徒一人一人との関わりの経過を確認することができます。

5月の生活を振り返って、みんなで考えたルールについて自由に書きこんでください！

今のクラスのルール

- ① 開始4分前には教室を出発しよう。
- ② 授業後、次の授業の準備物を机に出そう。



学業指導と人権教育

本県が学校における人権教育の具体的な指導の考え方として示している「三指導」（基底的指導、直接的指導、間接的指導）の内、基底的指導は、児童生徒が相手の立場に立って物事を考え、行動したり、温かい思いやりに満ちた人間関係を築いたりする力等を育てるために、授業を含め教育活動全体を通じて行う指導です。また、基底的指導を充実させるためには、児童生徒一人一人が認められていることを実感できるように、教職員には、児童生徒一人一人の大切さを強く自覚し人権を尊重する姿勢が求められます。

このことは、教職員が日頃から児童生徒一人一人への理解を深め、信頼関係を構築するなどしながら、日々の授業を含めた学級（ホームルーム）における活動等を通じて指導・援助を行うという学業指導の考え方に共通しています。

学業指導と人権教育は、ともに、全ての教育活動において、友達や教職員、地域の人々など多様な他者との関わりを通じて行われます。教職員が人権尊重の理念を十分に認識し、児童生徒の人権意識の高揚を図る視点をもって学業指導の取組を進めていくことで、児童生徒一人一人が、互いの人権が尊重された雰囲気の中で、それぞれのよさや可能性を発揮しながら生活し、学習に意欲的に取り組むようになります。



学業指導といじめの問題

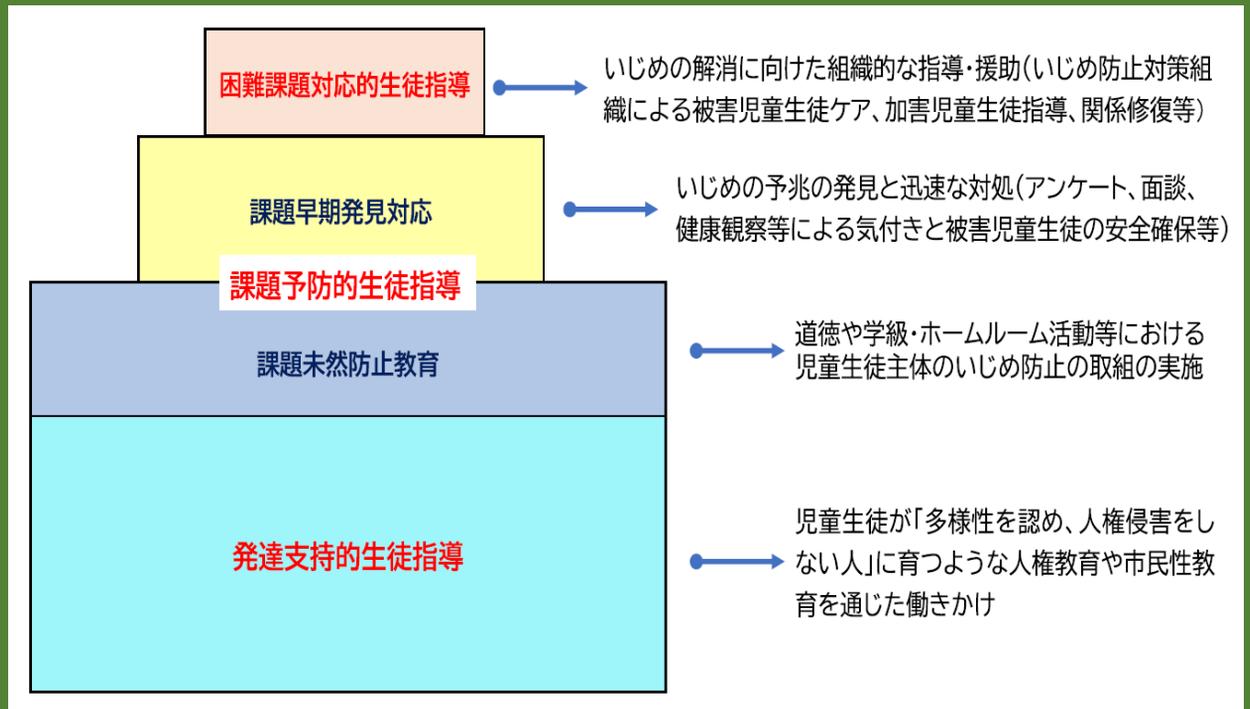
いじめの問題への対応においては、教職員一人一人が児童生徒の些細な変化を見逃さず、いじめを早期に発見し、組織的に対応するとともに、日頃からいじめが起きにくい環境づくりを進めていくことが大切です。また、生徒指導提要（令和4（2022）年12月）では、「いじめを生まない環境づくりを進め、児童生徒一人一人がいじめをしない態度・能力を身に付けるように働きかけることが求められます」、「『全ての児童生徒にとって安全で安心な学校づくり・学級づくり』を目指すことも、いじめ防止につながる発達支持的生徒指導と捉えることができます」とされています。

日頃から学級（ホームルーム）に児童生徒が互いを思いやる雰囲気があれば、悪口や無視、嫌がらせ等が起きる可能性は低くなります。したがって、いじめが起きにくい環境をつくるためには、全ての教職員が、全ての教育活動を通じて、児童生徒が互いのよさや違いを認め合い、共感的な人間関係を築くことができるよう意図的な取組を実施することが大切です。

これは、「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」を通じた指導・援助と重なります。学業指導を意図的・計画的に進めていくことで、結果として、いじめだけでなく、暴力行為、不登校等、児童・生徒指導上の諸課題の未然防止につながる可能性があります。

※ いじめ対応の重層的支援構造

(「生徒指導提要」令和4(2022)年12月 文部科学省)



互いに高め合える学級づくり

[ポイント1]

目標の共有

- ① 目的意識の明確化
- ② 意見や思いの共有

児童生徒が互いの思いを大切にしながら生活できるよう、児童生徒の思いや担任の願いを踏まえて学級（ホームルーム）の目標を設定することが大切です。

児童生徒の意見や思いを引き出すことができるよう、目標設定に向けた話し合いを工夫しましょう。

[ポイント2]

自発的・自治的な活動

- ① 話し合い活動の充実
- ② 主体的な活動の工夫

児童生徒が協力し合って学校生活をよりよいものにしていくための働きかけが大切です。

児童生徒が話し合い、決定し、協力して活動する場の設定を工夫しましょう。

[ポイント3]

よさや可能性の発揮

- ① 自他のよさの認識
- ② 活躍の場の確保

児童生徒が自他の存在の大きさを意識できるようになるための働きかけが大切です。

互いのよさを認め合ったり、得意なことを発表し合ったり、賞賛し合ったりする場の設定を工夫しましょう。

[ポイント4]

活動の活性化

- ① 活動の場と内容の充実
- ② 個々の願いの実現

児童生徒が互いの主体性や意欲を高め合えるようになるための働きかけが大切です。

一人一人の児童生徒が達成感や自己有用感を感じられる活動の場の設定を工夫しましょう。



みんなの思いをひとつにしよう!



子どもたちが互いの思いを大切にして、みんなで目標に向かって進んでいくクラスにしていきたいんです!

子どもたちが互いの意見や思いを引き出しながらクラス目標を設定する活動を実施してはどうですか?



1 概要

児童生徒が、話し合いを通じて、教職員の願いや友達の思いを大切にしながらクラス目標をまとめていきます。

2 教職員の働きかけ

- ① 年度初め等の時期に、担任等が児童生徒に期待することなどについて願いや思いを伝えます。
- ② 児童生徒一人一人が、それぞれの思いを込めてクラス目標やキーワード等を考える場を設定します。
- ③ 学級(ホームルーム)委員長等が司会となって、それぞれの考えをクラス全体で共有し、話し合いを通じて一つの目標にまとめていく場を設定します。
- ④ 児童生徒が話し合いを通じてクラス目標を設定したことを賞賛するとともに、児童生徒がクラス目標に向かって成長していくことへの期待や励ましを伝えます。

児童生徒がクラスの状況を踏まえて自分の願いや思いを考え、それがクラス目標として表れるといいですね!

クラス目標を設定する時期を年度初めの時期に限定せず、例えば新1年生は学校生活に慣れてきた時期に話し合いを実施することも考えられます。



児童生徒一人一人の願いや思いを引き出す工夫

児童生徒一人一人の願いや思いが込められたクラス目標は、児童生徒の帰属意識を高めます。それぞれの児童生徒の考えを引き出し、クラス全体で共有する場を設定するなど話し合いの方法等を工夫しましょう。

〔KJ法を用いた活動の例〕

- それぞれの児童生徒が、クラス目標や関連するキーワード等を付せんに記載し、模造紙等に貼り付けていきます。
- 学級（ホームルーム）委員長等が、付せんの記載内容を分類して貼り付け、内容ごとに見出しをつけて整理します。
- 児童生徒は、分類された内容を踏まえてクラス全体で目指したいことについてグループで話し合い、その結果を発表します。
- 学級（ホームルーム）委員長等は、各グループの意見や分類された内容のバランスに配慮しながら、クラス目標として一つにまとめていきます。

クラス目標が児童生徒に浸透していくための工夫

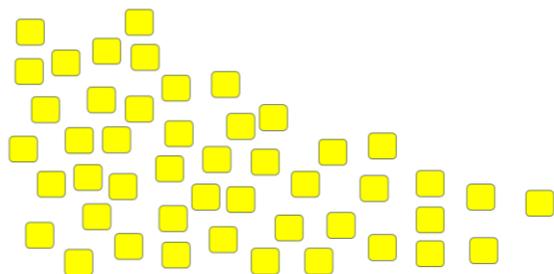
クラス目標がクラス全体で目指したい姿として浸透し、児童生徒の帰属意識の向上につながるよう、係の児童生徒等がクラス目標の掲示物を作成するほか、クラスカラーやシンボルマーク等についても検討するなど工夫しましょう。

ICT機器を活用した活動例

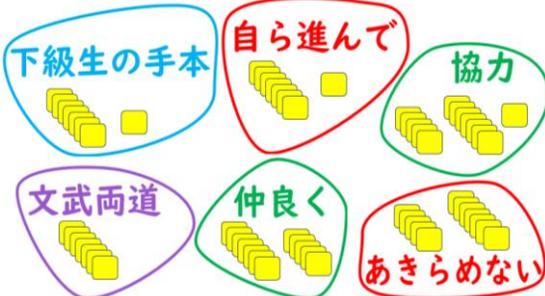
○ ホワイトボード機能の活用

ホワイトボード機能を活用し、KJ法を用いたグループやクラス全体での話し合い等を実施することができます。

クラスの目標を考えるので
どんなクラスにしたいか書いてください！



クラスの目標
みんなの意見をまとめてみました！





みんな、いつもありがとう!




子どもたちが互いの役割に関心をもって、クラスをよりよくしていこうとするクラスにしていきたいんです!



子どもたちが係活動について互いに感謝の気持ちを伝え合う場を設定してはどうですか?

1 概要

児童生徒が、係活動の振り返りを行い、クラス全員でよりよいクラスにしていくための方法等を互いに提案し合ったり、より効果的な方法について助言し合ったりします。

2 教職員の働きかけ

- ① 学期末の時期等に、振り返りシート等を用いて、係ごとにがんばったことやもっとがんばりたいことなどを話し合い、発表する場を設定します。
- ② 児童生徒が互いのがんばりを認める言葉や、よりよいクラスにしていくための提案や助言をワークシート等に記載し、事前に割り振られた係の児童生徒に対してワークシート等を手渡す場を設定します。
- ③ 係ごとに、友達から受け取ったワークシート等の内容を踏まえ、今後の取組について話し合い、友達への感謝の気持ちを表しながら今後の取組を発表する場を設定します。
- ④ 児童生徒が互いの役割やがんばりを認めるだけでなく、クラス全体でよりよいクラスにしていくための方法等を考えたことを賞賛します。

児童生徒が互いの立場を尊重しながら提案や助言ができるよう、活動の前に教師が各係のがんばっていたことなどを具体的に伝えておくといいです!

児童生徒が「よりよいクラスにする」視点から提案や助言ができるよう、友達への伝え方等も説明しましょう。



！ クラスの実態に即した係活動になるための工夫

児童生徒が友達からの提案や助言を踏まえて、今後がんばっていききたいことなどを検討する方法のほか、児童生徒がアンケート調査を実施し、クラスの実態を把握したり、クラス全員から提案や助言を得たりして、今後の取組を考えていく方法もあります。係以外のクラス全員との交流を通じた活動は、クラス全員でよりよいクラスにしていこうとする雰囲気づくりにつながります。

ICT機器を活用した活動例

○ アンケート機能の活用

係の児童生徒がアンケート項目を考え、クラス全員の意見、提案や助言を得ることができます。また、アンケートの結果をグラフ等で示すことで、児童生徒はクラスの実態等を客観的に受け止めることができます。

広報係からのアンケート

※ 活動を充実させるためのアンケートなので、自由に教えてください。

広報係では、授業参観に来た保護者にクラスの普段の様子を知ってもらうために、掲示物をつくりました。

質問1

家の人と掲示物や掲示物に載っていた出来事について話をしましたか？

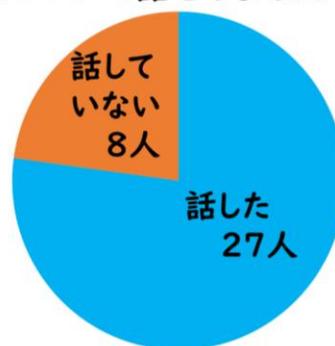
- 話した
 話さなかった

質問2

質問1で「話した」と答えた人に聞きます。どんな話をしましたか？

質問1

家の人と掲示物や掲示物に載っていた出来事について話をしましたか？



質問2

家の人とどんな話をしましたか？

休み時間やクラスの活動の写真を見て

- ・ 友達と楽しく活動していることが分かった
- ・ 学校生活の様子を知ることができた
- ・ 家にいるときとは違う姿が見れてよかった

親への一言コメントを見て

- ・ 感謝の言葉が書いてありうれしかった
- ・ 子どもの成長を感じた
- ・ クラスの子の書いたコメントに感心した





いいところ、たくさんあるよ!




子どもたちが互いのよさを伝え合い、生かし合って生活するクラスになってほしいんです!



子どもたちが友達のよさを認め、クラスのために互いに生かす場面を考える活動を実施してはどうですか?

1 概要

児童生徒が自己紹介カードを活用し、互いのよさや、学校生活の中で互いのよさを生かすことができる場面を伝え合います。

2 教職員の働きかけ

- ① 年度初めに作成した自己紹介カードを児童生徒に返却します。
- ② 児童生徒一人一人が学校生活を振り返り、自分のよさについて改めて考え、また、これまでの友達との関わりを踏まえ、友達のよさを考える場を設定します。
- ③ 児童生徒が友達一人一人のよさをカードや付せんに記載し、友達に手渡したり、机に貼り付けたりする場を設定します。
- ④ グループの中で、友達に認められた自分のよさを発表し合い、また、学校生活の中で互いのよさを生かすことができる場面等について伝え合う場を設定します。
- ⑤ 児童生徒が、自分のよさ、友達に自分のよさを活用してほしい場면을自己紹介カードに書き加え、発表する場を設定します。



児童生徒が互いに友達のよさを具体的に伝えることは、互いの自己存在感や自己有用感を高めることにつながりますね!

児童生徒が友達との関わりの中で感じたこと、友達に言われてうれしかったこと、してもらって助かったことなどを具体的に話しながら、友達のよさを伝えることを説明しましょう。

教職員の参加

児童生徒がありのままの自分を肯定的に捉え、また、友達のおよさを素直に認めることができるよう、教職員も活動に参加しましょう。教職員が手本となり、児童生徒が認められたよさや持ち味を发表或し、その感想を述べたりすることで、児童生徒は安心して活動に参加できるようになります。

ICT機器を活用した活動例

○ ホワイトボード機能やコメント機能の活用

カードや付せんの代わりに、ホワイトボード機能やコメント機能を活用することができます。また、児童生徒が、学校行事等に向けて、クラスのために活用してほしい自分のよさや持ち味を投稿することもできます。

困ったときは任せてください!(クラスのみんなの自己PR)



数学のことなら何でも聞いてね!



実は手先が器用! ミシンはまかせて!



パソコン操作で困ったら任せて!



みんなの前に立って盛り上げます!



書道を9年間習っています!



英語が得意です! 英作文は任せて!



ノートにまとめることが得意!
まとめるコツ教えます!



教科書よりも難しい問題を出題します!



暗記が得意です! 覚え方教えます!



聞き上手です! 悩みごとがあったら
相談してね!



かわいいイラスト描けます!



パソコンの動画編集が得意です!





お互いがんばっていこう!




子どもたちが目標に向かって努力していることを互いに応援し合うクラスになってほしいんです!



子どもたちが互いの目標や応援する気持ちを伝え合う活動を実施してはどうですか?

1 概要

児童生徒が、自分の様々な目標をワークシートに記載して発表し、応援メッセージや感謝の気持ちを互いに伝えます。

2 教職員の働きかけ

- ① 児童生徒が、学校生活に限らず、学習、生活、部活動、特技等に関する自分の目標をワークシートに記載し、発表する場を設定します。
- ② 児童生徒が、随時目標達成に向けた取組状況等を記載できるよう、それぞれのワークシートを児童生徒が記載しやすい位置に掲示します。
- ③ 児童生徒が休み時間等に友達ワークシートに応援メッセージを記載したり、メッセージを記載した付せんを貼り付けたりすることを説明します。
- ④ 学期末の時期等に、児童生徒がそれぞれの目標の達成状況や応援メッセージへの感謝の気持ちを伝え合う場を設定します。
- ⑤ 児童生徒一人一人が目標に向かってがんばっていることや互いに応援し合っていることなどを賞賛します。

学校以外での活動やがんばり等、学校生活では気が付かなかった友達のよさを知る機会にもなりますね!

児童生徒が様々な目標を発表し合い、応援し合うことで、自己存在感や目標達成に向けた意欲が高まります。



スピーチ活動の活用

児童生徒がワークシートに応援メッセージを記載したり付せんを貼り付けたりするほか、「がんばっている友達」等のテーマでスピーチ活動を実施することで、友達の目標達成に向けたがんばりを紹介し、応援する気持ちを伝えることができます。また、「毎日努力していること」等のテーマで実施することで、児童生徒が目標達成に向けた取組状況等を説明することができます。

ICT機器を活用した活動例

○ コメント機能の活用

児童生徒が目標の達成状況や達成に向けた取組状況を投稿することができ、その投稿を見た児童生徒も応援メッセージを投稿することができます。



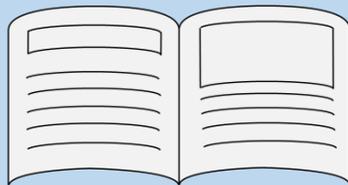
〇〇さんの今年の目標

自主学习を充実させることです。毎日1ページ取り組みたいです。



4月の振り返り

毎日1ページ取り組みました。授業の復習を中心にノートにまとめました。



クラスのコメント

まとめ方が上手で参考になりました！
毎日頑張っているね！



写真で見せてくれてありがとう。
私もノートにまとめてみようかな。



学業指導と特別活動

「なすことによって学ぶ」を方法原理とし、集団活動を基盤とする特別活動は、児童生徒が学校における様々な集団活動や体験的な活動に自主的、実践的に取り組むことを通じて、「人間関係形成」や「社会参画」、「自己実現」に寄与することを目的としており、学級（ホームルーム）や学校での様々な集団づくりに大きく関わっています。

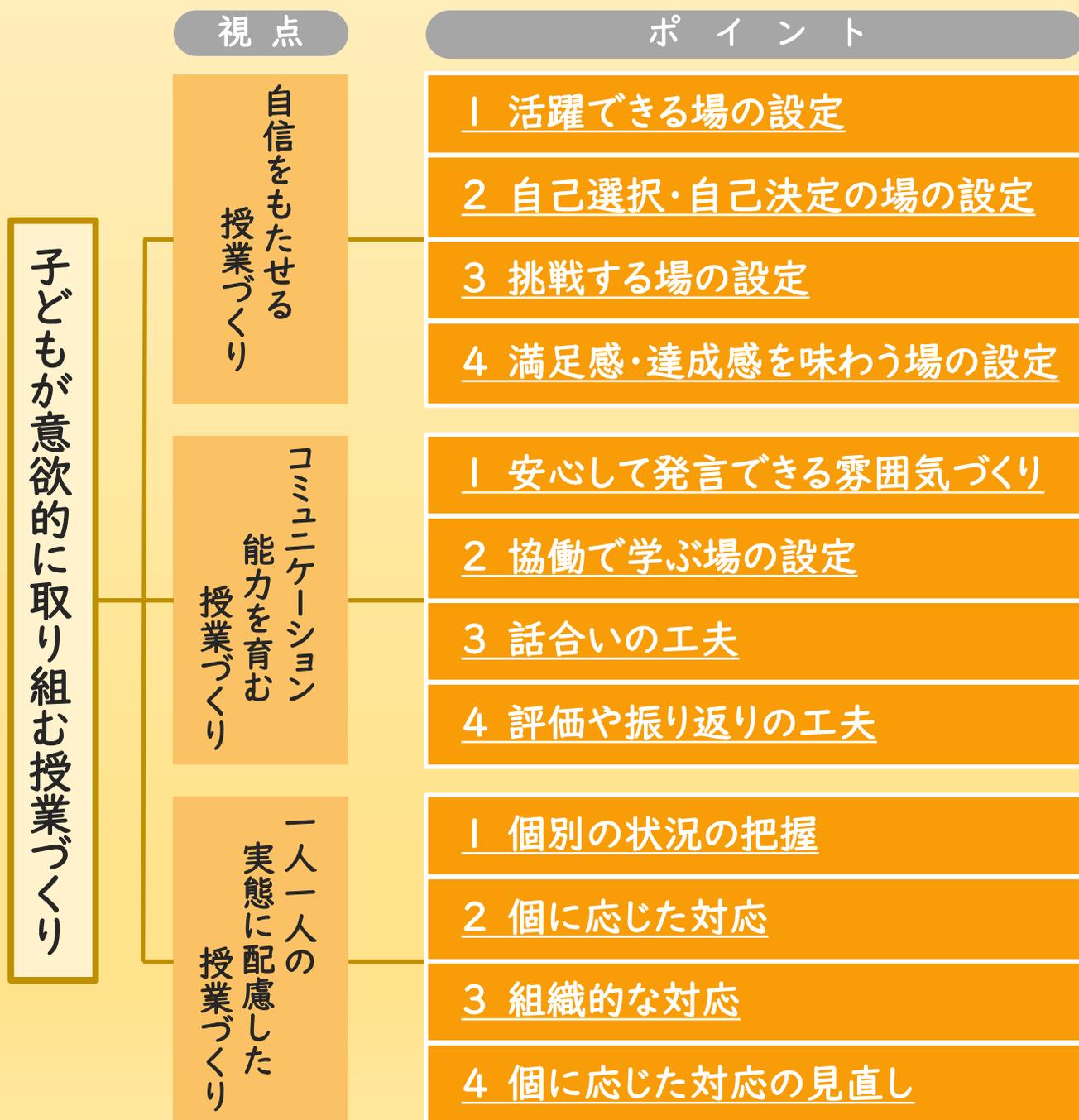
学業指導は、特別活動も主な指導・援助の場としています。学級（ホームルーム）における活動等において、教職員が意図的・計画的な働きかけを行うことで、児童生徒は学級（ホームルーム）への所属感・連帯感を感じ、互いに尊重し合いながら安心して生活でき、また、学習にも意欲的に取り組むようになります。

なお、中学校（高等学校）学習指導要領解説特別活動編（第2章第2節1）には、このことについて、「こうした指導について生徒指導の観点からは、学業指導と呼び、学級（ホームルーム）において学びに向かう集団づくりを行うことが重要である」という趣旨の記載があり、学業指導と特別活動が密接に関係していることを示しています。



3 学業指導の視点とポイント及び取組事例

- 子どもが意欲的に取り組む授業づくり -



子どもが意欲的に取り組む授業づくり

確かな学力の育成は、児童生徒の自己実現(社会的自立)に欠かせないものです。そのため、教職員が、一人一人の児童生徒にとって「わかる授業」を目指し、日々の授業改善に努めるとともに、児童生徒が学習活動に意欲的に取り組めるよう指導・援助することが必要です。

視点1 自信をもたせる授業とは

児童生徒が「できた」「分かった」という喜びや達成感を味わえる授業です。

このような授業では…

児童生徒は、自ら課題を見つけ、自主的かつ主体的に学習活動に取り組んでいます。

視点2 コミュニケーション能力を育む授業とは

児童生徒が協働で学ぶ「学び合い」がある授業です。

このような授業では…

児童生徒は、自分の考えを分かりやすく伝えようとするとともに、相手の思いや考えを理解し尊重して、互いの考えを広げたり深めたりしています。

視点3 一人一人の実態に配慮した授業とは

児童生徒が、それぞれの能力や適性、特性に応じて、意欲的に取り組むことができる授業です。

このような授業では…

児童生徒は、温かい人間関係や学びやすい環境の中で、学習に対する意欲が向上し、授業に楽しさを感じています。

自信をもたせる授業づくり

[ポイント1]

活躍できる場の設定

- ① 発言や発表の場の設定 ② 役割を果たす場の設定

児童生徒がそれぞれのよさや可能性を発揮する場を設定することが大切です。発言の取り上げ方を工夫し、一人一人の意見を授業に役立てたり、活動の中で役割を果たすことができる場を設定したりするなど、一人一人を生かした取組を工夫しましょう。

[ポイント2]

自己選択・自己決定の場の設定

- ① 学習内容や活動の流れの明確化 ② 選択・決定する場面の設定

児童生徒が自分で考え、選択したり決定したりする場を設定することが大切です。学習内容や活動の流れを明確にし、児童生徒が学習方法等を選択・決定する場面を工夫しましょう。

[ポイント3]

挑戦する場の設定

- ① 意欲を喚起する工夫 ② 試行錯誤する場の設定

児童生徒が、最後まで粘り強く取り組む場を設定することが大切です。児童生徒が関心や意欲をもって難解な問題に挑戦するなど、試行錯誤の経験の場を工夫しましょう。

[ポイント4]

満足感・達成感を味わう場の設定

- ① 取組の過程や結果を認める場の工夫
② 互いのよさを理解し合う場の工夫

児童生徒が分かる喜びを感じ、達成感を味わうことができる場を設定することが大切です。

児童生徒同士が互いのよさを理解し合う場や、取組の過程や結果を具体的に認める場を工夫しましょう。



お互いがんばっていこう!




子どもたち一人一人が自分のよさを発揮できる授業がしたいんです!



子どもたちがグループの中で役割を果たしながら学習する活動を実施してはどうか?

1 概要

児童生徒が、互いのよさを理解した上で、グループでの学習活動における役割分担について話し合い、互いに協力し合って活動を進めます。

2 教職員の働きかけ

- ① 授業のねらいを踏まえ、グループ活動の内容や必要な役割（進行係、情報収集係、発表資料作成係、発表係、質問係等）について検討します。
- ② グループ活動を始める前に、活動の内容やそれぞれの役割の内容、人数等について具体的に説明します。
- ③ グループの中で、児童生徒が活動のテーマや役割分担について話し合う場を設定します。その際、児童生徒が互いのよさを理解し、互いによさを発揮し合うことができるよう役割を分担すること、それぞれが役割を果たすことができるように互いに協力し合うことを伝えます。
- ④ 児童生徒が自分のよさや可能性を広げることができるよう、次回のグループ活動では、前回の活動後の児童生徒の振り返りの内容等に配慮しながら、前回と異なる役割を果たすことなどについて伝え、児童生徒が役割分担について話し合う場を設定します。
- ⑤ グループの話合いの状況を観察し、必要に応じて、話合いに参加し、それぞれの児童生徒のよさを紹介します。

1人で役割を担当することに不安を感じる児童生徒がいる場合には、2人以上で担当する役割を設定することも必要ですね!

互いに不安を共有し、協力し合って学習に取り組む場を設定することは、共感的な人間関係を育むことにつながります。



児童生徒一人一人のよさを引き出す工夫

授業の中で児童生徒が自分のよさや可能性を発揮するためには、児童生徒が発言しやすい雰囲気を作ることが大切です。日頃から、振り返りシート等の記載内容や机間指導の中での対話を通じて児童生徒のつぶやきを把握することや、児童生徒の発言をクラスで共有するなどして授業に役立てることなどを意識しましょう。また、授業中以外の場面においても、ノート等へのコメントや休み時間等の声かけを通じて、授業中の児童生徒の取組について賞賛したり励ましたりしましょう。

[児童生徒のつぶやきや発言を生かす対話等の例]

- 児童生徒の発言の内容に関わらず、発言そのものを認め、肯定的に取り上げる。
 - 「なるほど、〇〇さんは、そのように考えたんだね。みんなはどう考えたかな？」
 - 「いいところに着目したね。先生は思いつかなかったよ。みんなはどうかな？」
- ノートの記載を生かすことで発言に変え、他の児童生徒と共有する。
 - 「〇〇さんは、ノートに・・・と書いていますね。〇〇さんの考えと同じ考えの人はいますか？ 〇〇さんの考えに付け加えてくれる人はいますか？」
- 児童生徒のがんばりを具体的に伝える。
 - 「〇〇さん、質問ありがとう。疑問に思ったことを質問できることはすばらしいです。」
 - 「〇〇さんは、友達の見をしっかりとしてノートにメモしているんですね。」

ICT機器を活用した活動例

○ 動画の作成・配信、コメント機能の活用

グループの中で役割分担について話し合う場合に、タブレットを活用し、年度初めに保存した自己PR等を確認することで、互いの得意分野等を踏まえながら役割分担を決めたり、互いに自分の得意分野等について改めて伝え合ったりすることができます。

英語のスライドを作ろう

分担

・英語での文章を考える担当

英語が得意です！英作文は任せて！

・スライドにまとめる担当

パソコン操作で困ったら任せて！

パソコンの動画編集が得意です！

困ったときは任せてください!(クラスみんなの自己PR)

数学のことなら何でも聞いてね!

パソコン操作で困ったら任せて!

書道を9年間習っています!

ノートにまとめることが得意!
まとめるコツ教えます!

暗記が得意です!覚え方教えます!

タブレットが得意です!

実は手先が器用!ミシンはまかせて!

みんなの前に立って盛り上げます!

英語が得意です!英作文は任せて!

教科書よりも難しい問題を出題します!

聞き上手です!悩みごとがあったら相談してね!

パソコンの動画編集が得意です!





自分で考えて説明できました！



子どもたちが自分で考えたことを友達に自分で説明できる授業がしたいんです。

子どもたちが友達に伝えたい内容や方法を自分で考える活動を実施してはどうですか？



1 概要

児童生徒が自分の考え等をまとめて説明や発表をするために、自分で選択した学習方法や説明方法等に沿って準備を進め、発表します。

2 教職員の働きかけ

- ① 児童生徒が前回の授業までに身に付けた様々な知識を活用し、自分の考えや調べたことなどを説明・発表できるように、児童生徒一人一人またはグループでの説明・発表のテーマ、考えをまとめるための方法（道具や器具、場所、調べ学習の方法等）、説明や発表の方法（模造紙、実物、写真や動画等の活用）等について検討し、複数の方法を用意します。
- ② 児童生徒がそれぞれの興味・関心を踏まえて考えをまとめ、説明や発表の方法等について考えたり、話し合ったりする場を設定します。その際、自分の考えをまとめるための方法、説明や発表の方法を選んだ理由も伝えることを伝えます。
- ③ 児童生徒が自分で選んだ方法で考えをまとめ、説明や発表に向けて準備をする時間を十分に確保します。
- ④ 児童生徒が互いのよさや考えの違い等に気が付くことができるよう、児童生徒が互いに説明し合ったり、質問し合ったりする場を設定します。

児童生徒一人一人の状況に配慮し、様々な興味・関心や到達度等に応じて様々な方法を用意しておくといいですね！

児童生徒が自分で考えたことを自分で説明し、それを互いに認め合う場を設定することは、学習への自信につながります。



主体的な学びを引き出す自己選択・自己決定の工夫

児童生徒の「～をもっと知りたい」、「～ができるようになりたい」という思いを引き出すためには、授業の内容の定着を図ることに加え、児童生徒が自分の思いを実現することにつながる学習方法や学習の流れ等を提示し、児童生徒が自ら選択し決定できる場を設定することが大切です。児童生徒の状況や到達度、興味関心はそれぞれ異なるため、児童生徒が自分で考え判断する過程を大切に、活動に自由度を持たせましょう。

授業の中で児童生徒の自己選択・自己決定の場を設定し、指導・援助していくことは、「自己指導能力」の獲得を支えていくことに深く関連しています。

※ 自己指導能力（生徒指導提要）

「児童生徒が、深い自己理解に基づき、『何をしたいのか』、『何をすべきか』、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定して、この目標の達成のため、自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力」

〔授業の中で自己選択・自己決定の場を設定するための主な留意点〕

- ・ 児童生徒の到達度に応じて、幅広く課題を設定する。
- ・ 児童生徒が自分の到達度を踏まえ、自ら課題を設定したり、課題を選択したりする場を設定する。
- ・ 児童生徒が自分の課題を達成するための学習（実験、練習、調査等）の方法、場、道具・器具等を複数用意する。
- ・ 児童生徒が自分の課題を達成するための学習（実験、練習、調査等）の方法等を自分で考え選択し、工夫しながら学習する時間を確保する。
- ・ 児童生徒同士が互いの課題や学習方法等について伝え合ったり助言し合ったりするなどして、自分の考えを整理し、必要に応じて新たな方法等を選択し改善につなげていくための時間を確保する。
- ・ 児童生徒の学習状況に応じて、効果的な方法等について助言する。





友達と何度も考えました!




子どもたちが自分で考えたことを友達に自分で説明できる授業がしたいんです!



子どもたちが対話を通じて自分の考えを深めていく活動を実施してはどうですか?

1 概要

児童生徒がグループでの発表の事前練習として、互いに「なぜ？」などと質問し合い、練習を積み重ねます。また、クラス全体での発表においても、各グループからの「なぜ？」などの質問に対応します。

2 教職員の働きかけ

- ① 児童生徒が前回の授業までに身に付けた様々な知識を活用し、グループごとにテーマに沿って調べたことについて発表する活動の中で、発表の事前練習としてペアになって互いに発表し合う場を設定します。
- ② 事前練習のルールとして、発表したグループに対して「なぜ？」などと質問すること、質問に答えることができなかつた場合には質問に答えることができるようにグループで話し合った上でもう一度発表することを伝えます。
- ③ グループごとに、クラス全体に向けて発表する場を設定します。また、ルールとして、グループごとに「なぜ？」などと質問することを伝えます。
- ④ 全てのグループの発表後、互いに発表を聞いて分かったことやがんばっていたことなどを伝え合う場を設定します。

児童生徒が、課題を解決するために自分で考え、友達と協力しながら試行錯誤していく過程を大切にしましょう!

友達と協力し合って困難な場面を乗り越えることは、友達のよさを発見したり人間関係を深めていくことにもつながります。



児童生徒の試行錯誤を引き出す場の設定等の工夫

児童生徒が粘り強く学習に取り組むようになることをねらいとした場の設定として、児童生徒の到達度よりも高い教材等に取り組む場に加え、児童生徒が答えが一つとは限らない課題(テーマ)について互いに発表や質問をし合う場を設定することが考えられます。答えが一つとは限らない課題(テーマ)を設定することで、児童生徒が様々な考えを持ち、また、互いの考えに対して疑問を持つようになります。また、互いに「なぜ？」などと質問することをルールとすることで、児童生徒は互いに自分の課題を解決すると同時に、友達の質問に答えたいと思うようになります。その結果、児童生徒は、他のグループに説明できなかったことや友達の質問に答えられなかったことなどを経験したり、グループの友達と協力しながら、これまで身に付けた知識や調べたことなどを繰り返し振り返ったりするなどしていきます。教職員は、授業のねらいとの関連を意識しながら、児童生徒の様々な考えや疑問が生まれる課題(テーマ)設定を工夫するとともに、児童生徒が互いのよさを認め合いながら課題を解決できるよう働きかけていくことが大切です。

〔児童生徒が互いに試行錯誤を引き出す質問等の例〕

- なぜそのように考えたのですか？
- 他にも理由があると思います。どうですか？
- もっといい方法があると思いますが、なぜその方法を選んだのですか？
- 他の・・・でも同じ傾向がありますか？
- その考えは初めて知りました。詳しく教えてください。

ICT機器を活用した活動例

○ プレゼンテーションソフト、コメント機能の活用

プレゼンテーションソフトを活用し、課題の解決のための学習方法等について発表したり、コメント機能を活用して質問したりすることで、タブレット上でも互いの考えを共有したり、助言し合ったりすることができます。

1. テーマ

2. 調べ方について

私は、課題解決のために

- ・ インターネット検索
- ・ インタビュー

で調べようと考えてます。

3. まとめ
について

4. 発表
について

班の人からのコメント

インタビューはいいアイデアだと思います。

なぜインタビューを選んだのですか？

誰にインタビューする予定ですか？

体験してみても見る方法もあると思いますが、どうですか？





がんばってきてよかった!




子どもたちが友達との関わりを通じて達成感を味わうことができる授業がしたいんです!



子どもたちが互いにがんばったことや取組のよかったことなどを認め合う活動を実施してはどうですか?

1 概要

児童生徒がグループやクラス全体の前で意見を発表したり、作品の説明をしたりする際、児童生徒が互いに発表等のよかった点やがんばっていたことなどを伝え合ったり、作品の感想等を付せんに書いて渡したりします。

2 教職員の働きかけ

- ① 児童生徒が、グループやクラス全体に向けて、意見の発表、実技の練習、作品の説明等を行う場を設定します。
- ② 児童生徒が意見の発表等をした後に、ペアやグループになって友達の発表等のよかった点や友達ががんばっていたことなどについて短時間で話し合い、それを発表したり、友達に伝えたりする場を設定します。
- ③ 児童生徒が作品を展示したり、作品について説明したりする場合には、互いに鑑賞し合って、作品のよかったことなどを付せん等を書いて友達に渡す場を設定します。
- ④ 児童生徒が互いの発表等のよかった点やがんばっていたことなどを認め、それを伝えることができたことを賞賛します。
- ⑤ 児童生徒一人一人の発表や作品のよかった点を具体的に説明したり、発表や完成に至るまでの努力を認めたりします。

実技の練習や発表の場面では、その場でよかったことなどを伝え合うことで、互いにその後の練習等に生かすことができますね!

授業の内容等に応じて、児童生徒が互いの取組等のよさを伝え合ったり助言し合ったりする場面の時機を工夫しましょう。



学習への意欲や自信につなげる声かけ等の工夫

児童生徒が互いに認め合う場面の設定を工夫することに加え、教職員が児童生徒に励ましや賞賛等の声かけを行うことも、児童生徒の学習への意欲や自信を高めていくことにつながります。授業中や授業以外の場面において、児童生徒の状況や到達度等に配慮しながら、学習の結果やその結果に至るまでのがんばり等を認める声かけを意図的に行いましょう。

〔児童生徒への声かけ等の留意点〕

- 児童生徒のよいところやがんばっているところを具体的に賞賛する。
 - ・ ノートの字がとてもきれいでした。読みやすかったですよ。
 - ・ 前の時間に比べて、・・・が上手になったね。グループの友達も拍手していましたね。
 - ・ ...について詳しく調べていましたね。先生も初めて知った内容もありました。
 - ・ ...という表現が印象に残りました。みんなも発表を聞いて勉強になったと思いますよ。
- 様々な方法や場面を活用して賞賛する。
 - ・ 提出されたノートや振り返りシート等に励ましや賞賛のコメントを記入する。
 - ・ イラストやシール等を活用するなどして、教職員の励ましや賞賛の気持ちを伝える。
 - ・ 担任を通じて、間接的に励ましや賞賛のコメントを伝える。

ICT機器を活用した活動例

○ コメント機能の活用

児童生徒がタブレットを使って提出した課題に対して、コメント機能を活用し、提出された課題の内容に関する助言、課題への取組の様子等に関する励ましや賞賛のコメントを添えることができます。タブレット上にコメントが残るため、児童生徒は教職員の助言等を随時確認しながら学習に取り組むことができるほか、教職員も児童生徒一人一人に対する助言、励ましや賞賛のコメントを確認することができます。

先生からの課題

右のワークシートの問題を解いて提出しましょう。

ワークシート
①
ここをクリック

〇〇さんが課題の提出

課題を提出します。
最後の1問がわかりませんでした。

ワークシート
①
△組 ○○○○

先生からのコメント

ワークシートを確認しました。
最後の問題、頑張って考えましたね。
では、ヒントを出します・・・

ヒントで解き方が見えてきました。
もう少し考えてみます！



学業指導と学習指導

学習指導要領では「生徒理解を深め、学習指導と関連付けながら、生徒指導の充実を図ること」、生徒指導提要では、学習指導において「生徒指導の実践上の視点を生かすことにより、その充実を図っていくこと」とされるなど、児童・生徒指導と学習指導が相互に深く関わりがあることを意識しながら指導・援助を進めることが求められています。

また、生徒指導提要では、「授業は全ての児童生徒を対象とした発達支持的生徒指導の場」とされ、「教科の指導と生徒指導を一体化させた授業づくり」が、4つの「生徒指導の実践上の視点」に沿って整理されました。教職員が、教科のねらいを達成することに加え、「授業も『学びに向かう集団づくり』の場」であることを意識しながら行う「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」は、4つの「生徒指導の実践上の視点」を意識した実践であり、「教科の指導と生徒指導を一体化させた授業づくり」であると言えます。

さらに、生徒指導提要には「教員が学習指導と生徒指導の専門性を合わせもつという日本型学校教育の強みを活かした授業づくりが、児童生徒の発達を支えます」という記載があります。これは、「集団の中で学ぶ」という学校教育の特質を生かして、児童生徒一人一人が成長するのを支えていく視点に立って指導・援助を進める、「学業指導」の有効性を示しています。

〔教科の指導と生徒指導を一体化させた授業づくりの視点〕

- 自己存在感の感受を促進する授業づくり
- 共感的な人間関係を育成する授業づくり
- 自己決定の場を提供する授業づくり
- 安全・安心な「居場所づくり」に配慮した授業づくり



コミュニケーション能力を育む授業づくり

[ポイント1] 安心して発言できる雰囲気づくり

- ① 受容的な態度の育成
- ② 目的やルールの明確化

児童生徒がお互いの意見や考えを尊重できるようになるための働きかけが大切です。

教職員自身が児童生徒の様々な意見を大切にするとともに、話し合いの目的やルートを明確に示すなど、安心して発言できる環境づくりを工夫しましょう。

[ポイント2] 協働で学ぶ場の設定

- ① 学び合いのある授業の展開
- ② 学習形態の工夫

児童生徒が話し合い、合意形成を図る場を設定することが大切です。話し合う必要性を持たせたり、目的に応じて学習形態を工夫したりしましょう。

[ポイント3] 話し合いの工夫

- ① 話し合いの目的の明確化
- ② 話し合いの質を高める工夫

児童生徒が目的に沿って話し合い、協力し合って結論を出すことができるようになるための働きかけが大切です。

児童生徒が自分の考えを持って話し合いに参加し、互いに協力し合って結論を出そうとする場の設定を工夫しましょう。

[ポイント4] 評価や振り返りの工夫

- ① 自己理解・他者理解につながる評価の活用
- ② 互いのよさに気付く振り返りの工夫

児童生徒が、自己評価や相互評価、振り返りを通じて、自己理解や他者理解を深めていくための働きかけが大切です。

児童生徒が、互いのよさや意見を伝え合うことの楽しさなどに気付くことができるよう指導を工夫しましょう。



気持ちよく授業に参加しよう!



子どもたちが自分の意見を積極的に発言できる授業がしたいんです!

子どもたちが、授業中のきまりを考える活動を実施してはどうですか?



1 概要

児童生徒が授業中の話し方や聞き方のきまりの必要性等について話し合い、系の児童生徒が話し合いを通じて決めたままりをノートサイズにまとめ、担任等がそれを印刷・配布し、児童生徒はノートに貼り、きまりを意識して授業に参加します。

2 教職員の働きかけ

- ① 年度初めの時期等に授業の進め方、教科等に応じた授業中のきまりの内容について説明します。
- ② 児童生徒が、互いに安心して授業に参加するために必要な話し方や聞き方のきまり、その具体的な内容について話し合う場を設定します。
- ③ 児童生徒がきまりを意識して授業に参加することができるよう、系の児童生徒がきまりをノートサイズにまとめる時間を確保し、それを印刷して配布します。
- ④ 授業中の児童生徒の状況に応じて、授業の中できまりを確認したり、きまりを守っている児童生徒を賞賛したりします。

教職員が日頃から児童生徒の発言を最後まで聞いたり、児童生徒の発言の正誤のみにこだわらず、発想や着眼点を賞賛したりすることが大切ですね!

学級(ホームルーム)全体に受容的な雰囲気が生まれると、児童生徒は安心して積極的に発言できるようになります。



対話のある授業の展開に向けた指導の工夫

児童生徒が互いの話に真剣に耳を傾けたり、考えを述べ合ったりすることは、自分の考えを広げたり深めたりするとともに、コミュニケーション能力の育成につながります。授業の中で、児童生徒が互いの存在を尊重して、発言したり、発表を聞いたりすることができるよう、児童生徒自身が設定した話し方や聞き方のきまりを活用するなどして、授業中の話し方や聞き方について指導しましょう。また、児童生徒自身が話し方や聞き方のきまりを設定する場合には、発達の段階に応じて、児童生徒に期待する話し方や聞き方の例を紹介しましょう。

〔授業中の「聞き方」に関する指導の例〕

- ・ 「話す人の方を向きましょう」、「話す人の方におへそを向けましょう」
- ・ 「最後まで話を聞きましょう」
- ・ 「うなずきながら聞きましょう」
- ・ 「相づちを打ちながら聞きましょう」（相づちの例:「いいね」、「なるほど」等）

〔授業中の「話し方」の指導例〕

- ・ 「みんなの方を向いて話しましょう」
- ・ 「みんなに聞こえるように話しましょう」
- ・ 「早口にならずにゆっくりと話しましょう」
- ・ 「みんなの表情を確認しながら話しましょう」





友達のおかげで発表できました!



子どもたちが互いに助け合いながら学習に取り組む授業がしたいんです!

話合いの目的や流れを丁寧に説明したり、子どもたちが考えをまとめる時間を確保したりしてはどうですか?



1 概要

児童生徒は、授業のねらいや話合いの流れ等を理解し、自分の考えをまとめ、グループ等で話し合い、その結果を発表します。また、友達との話し合いを通じて感じたことなどを発表します。

2 教職員の働きかけ

- ① 授業のねらいを踏まえ、話合いの目的や内容を検討し、目的に即した話合いの形態(クラス全体、グループ、ペア)について検討します。
- ② 話合いの目的やテーマ、話合いから発表までの流れ等について具体的に説明します。
- ③ 児童生徒が話合いの中で自分の意見を話すことができるよう、話合いを実施する前に、友達と協力しながら情報を収集したり、自分の考えをまとめたりするための時間や場所(図書室等)を確保します。
- ④ 児童生徒がテーマに沿って話し合い、その結果を発表する場だけでなく、友達との話し合いを通じて感じたことなどを共有する場を設定します。また、必要に応じて、事前に話し方や聞き方のきまりを確認します。

児童生徒一人一人が話合いの中で自分の意見を話すことができるようになるためには、考えをまとめる準備が必要ですね!

話合いの目的や流れを丁寧に伝えることに加え、準備のための時間や場所を確保し、また、友達と協力し合って準備する場も設定しましょう。



話し合いの形態の工夫

授業中の話し合いには、児童生徒同士の助け合いや互いに高め合う人間関係づくりを促進したり、学級（ホームルーム）の親和性を高めたりする効果があり、結果として、児童生徒の学習意欲の向上につながります。授業のねらいや学級（ホームルーム）の実態等に即して、話し合いの形態を選択したり、話し合いの内容を工夫したりしましょう。

〔話し合いの形態及びその特徴〕

形態	長所	短所
クラス全体	<ul style="list-style-type: none"> 多様な考えを知ることができる。 クラス全体で友達の考えを共有したり、課題の解決に向けて検討したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が発言する機会が少ないため、話し合いに対して受け身になる場合がある。 自分の考えを説明するときの心理的負担が高い。
グループ	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを説明するときの心理的負担が、クラス全体に向けて説明する場合よりも低い。 複数の考えを基に課題の解決に向けて検討することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ内の状況に応じて、話し合いに対して受け身になる場合がある。
ペア	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを説明するときの心理的負担が、グループやクラス全体に向けて説明する場合よりも低い。 短時間で互いの考えを深め合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な考えを知ることができない。

〔グループ編成の工夫〕

- 課題の解決に向けた考え方が似ている児童生徒同士でグループを編成する。
 - ⇒ 話し合いがより活発になります。また、同じ考えであっても、その理由に違いがあることなどが分かります。
- それぞれの児童生徒の得意分野を生かしてグループを編成する。
 - ⇒ 児童生徒が互いのよさを知り、人間関係が深まります。
- 活動のたびにグループを編成する
 - ⇒ 児童生徒の交流の機会が増え、人間関係が広がります。





みんなで考えをまとめました!



子どもたちが互いに意見を出し合いながら、協力して話し合いを進めていく授業がしたいんです!

子どもたちが自分の考えを持って話し合い、友達と協力して考えをまとめる活動を実施してはどうか?



1 概要

グループの中で児童生徒一人一人が1つのテーマについて自分の考えを説明し、話し合いを通じて、グループの考えとしてまとめ、発表します。

2 教職員の働きかけ

- ① 授業のねらいを踏まえ、1つのテーマについて、グループごとに考えをまとめ、発表するための話し合いについて検討します。
- ② 話し合いの目的やテーマ、グループでの話し合いの中で児童生徒一人一人が自分の意見を理由や根拠を持って説明すること、グループごとに話し合いの結果を発表することについて説明します。
- ③ 話し合いを実施する前に、児童生徒が情報を収集したり、自分の考えやその理由等をまとめたりするための時間を確保します。
- ④ 児童生徒がグループの中で自分の考えを説明し、グループの考えとしてまとめていく場を設定します。
- ⑤ 各グループの代表の児童生徒が、クラス全体に対して、グループの考えを発表したり、互いに質問や感想を述べ合ったりする場を設定します。

児童生徒が互いの考えを受け止めながら話し合いを進めることができるように働きかけましょう!

状況に応じて、教師も話し合いに参加し、進行役の児童生徒に配慮しながら、児童生徒の意見をつないでいくことが大切です。



児童生徒同士の対話のある発表の工夫

グループでの話し合いの場で、児童生徒が互いに理由や根拠を持って考えを伝え合うことは、友達と協力して考えをまとめていくだけでなく、話し合いのテーマに関連する新たな気づきや発見を得ることや、グループ内の友達のよさに気付くことにもつながります。クラス全体への発表の場においても、児童生徒同士の対話のある場面を設定しましょう。そして、グループでの話し合いやクラスでの発表の中で気付いた友達のよさについて感想を述べ合う場も設定しましょう。

〔対話の場面のある発表の場の例〕

「ワールド・カフェ」とは、「カフェのようになりラックスできる雰囲気の中で、メンバーの組合せを変えながら、4～6人の小人数で話し合いを続けることにより、深い相互理解や新しい知識を生み出す話し合いの手法」

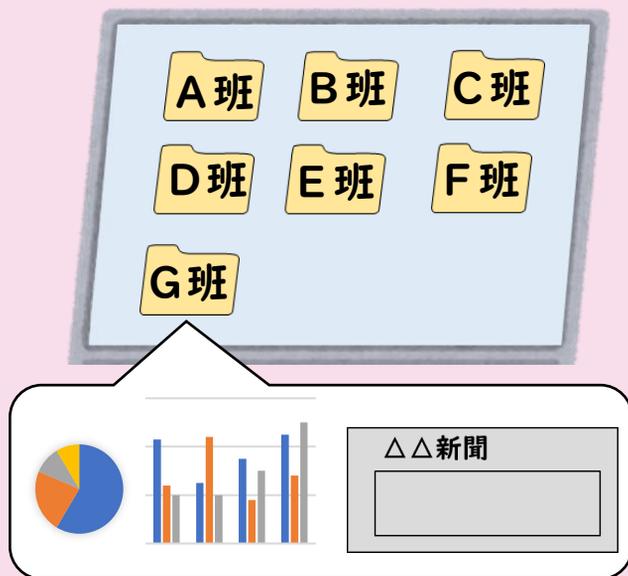
(男女共同参画推進のためのワールド・カフェ実践手引書(改訂版) 文部科学省)

- ① グループに残る児童生徒を一人決め、残りの児童生徒は「旅人」となり、他のグループに移動します。
- ② グループに残った児童生徒は、他のグループの「旅人」を迎えて、各グループの話し合いの結果を共有し、それぞれのグループの立場から同じテーマについて話し合います。
- ③ 「旅人」が自分のグループに戻り、旅先(他のグループ)で得た話し合いの結果等を共有し、グループの結果を見直したり、新たに気付いたことを共有したりします。
- ④ 各グループの代表の児童生徒が、「ワールド・カフェ」を通じて話し合ったこと、新たに気付いた他のグループのよさ等を発表します。

ICT機器を活用した活動例

○ 資料やデータの活用

特に「ワールド・カフェ」の活動では、児童生徒が他のグループに移動して自分のグループでの話し合いの結果を発表しますので、タブレット上で発表する内容やその理由や根拠になる資料やデータを共有しておく、「旅人」の児童生徒は自信をもって発表することができ、また、他のグループの児童生徒も発表を聞きやすくなります。



次の時間もがんばるぞ!

子どもたちが互いのよさやがんばりを認め合う授業がしたいんです!

子どもたちが自分では気が付かなかったよさに気付く活動を実施してはどうですか?

1 概要

授業の振り返りの中で、児童生徒が授業への自分自身の取組を評価するだけでなく、友達に対して授業の取組への評価に加えて、がんばっていたことやアドバイスを伝えます。また、友達のコメント等への感想を発表します。

2 教職員の働きかけ

- ① 評価の視点を示した振り返りシートを作成します。
- ② 授業後にこれまで学習した内容の要点等を説明し、また、授業中に児童生徒ががんばっていた様子等について伝えます。
- ③ 振り返りシートを配布し、児童生徒が評価の視点に沿って自己評価する場を設定します。
- ④ 児童生徒が友達と振り返りシートを交換したり、振り返りシートを持って友達と話したりするなどして、互いに評価し合ったり、がんばっていたことについてコメントを記載し合ったりする場を設定します。その際、友達に具体的にアドバイスをすることを伝えます。
- ⑤ 児童生徒が友達から評価やコメント等をもって感じたことなどを振り返りシートに記載し、それを発表する場を設定します。

児童生徒一人一人が友達や先生に自分のよさやがんばりを認められたことを実感できるといいですね!

日頃から教職員が児童生徒一人一人のよさを認める声かけを行いましょ!



児童生徒が自分のよさに気付く振り返りの工夫

振り返りシートを活用した相互評価は、児童生徒が自分のよさや課題への気付きや次の授業に向けた意欲の向上につながるだけでなく、児童生徒の自己存在感を高めることにつながります。振り返りシートを活用し、振り返りの場面の働きかけを工夫しましょう。

[振り返りシートの例]

今日の授業を振り返りましょう。

○月○日(○) ○年○組○番 名前:○○○○

○ 内容: ○○○○

○ 評価の視点

① ……できたか。

② ……できたか。

③ ……できたか。

[よくできた:◎ ときどきできた:○ あまりできなかった△ できなかった:×

○ この時間の自分や友達の取組の評価や、自分自身や友達へのコメントなどを書きましょう。

名前	視点①	視点②	視点③	コメントやアドバイス
自分	○	△	×	…はまあまあできた。次はもっとできるようになりたい。
○○さん	◎	◎	○	とても上手にできていた。…ができる と完璧だと思う。
○○さん	○	◎	△	…が上手だった。もう少し…が できると思う。
○○さん	○	○	○	全体的に上手だった。…を工夫すると もっとよくなると思う。

○ 友達に上の表に書いた評価やコメントなどを伝えましょう。

○ 友達からもらった評価やコメントなどを聞いて感じたこと、気付いたことを書きましょう。

感じたこと、気付いたこと

自分では上手にできたと感じなかったが、友達は私の…ところを褒めてくれたのでとてもうれしかったし、みんなが応援してくれていることを感じた。次の時間までにもう少し練習しようと思った。



学業指導と幼児教育

幼稚園教育要領解説では、幼稚園教育が目指すものは「教師主導の一方的な保育の展開ではなく、一人一人の幼児が教師の援助の下で主体性を発揮して活動を展開していくことができるような幼児の立場に立った保育の展開である」とされています。つまり、活動の主体は幼児であり、教師は活動が生まれやすく、展開しやすいように意図をもって環境（物的な環境だけでなく、教師や友達との関わりを含めた状況全て）を構成していく必要があります。

このことは、児童生徒が自ら発達していくことを支えていく視点に立ち、児童生徒が主体的に活動する場や機会を意図的・計画的に設定しながら指導・援助を行う「学業指導」や「発達支持的生徒指導」の考え方と共通しています。

生徒指導提要では、生徒指導上の取組の留意点の一つとして「幼児教育との接続」が挙げられており、幼稚園・認定こども園・保育所と小学校（義務教育学校前期課程）の教職員が、情報交換等を通じて相互の指導の充実を図っていくことが強調されています。

幼児教育と小学校教育の円滑な接続は、小学校における学業指導の充実につながり、幼児が小学校（義務教育学校前期課程）に入学した当初の時期に限らず、その後の学校生活においても、児童が安心して学ぶことができるようになることが期待されます。



一人一人の実態に配慮した授業づくり

[ポイント1]

個別の状況の把握

- ① 情報交換等の実施 ② 授業の取組状況等の把握

児童生徒が学習内容を着実に身に付けていくことができるよう、児童生徒一人一人の状況を把握することが大切です。

他の教職員との情報交換等を通じて、多角的な視点から授業中の様子や学習課題への取組状況等を把握しましょう。

[ポイント2]

個に応じた対応

- ① 個に応じた学習課題や学習方法の提示
② 学習の振り返りを通じた支援の実施

児童生徒が目標をもって授業に臨むことができるよう、個に応じて指導や支援をすることが大切です。

児童生徒の一人一人の状況に応じて、学習課題や学習方法を提示したり、振り返り等を通じて支援をしたりするなど、学習意欲を高める工夫をしましょう。

[ポイント3]

組織的な対応

- ① 教職員間の連携 ② 家庭との連携

児童生徒がそれぞれの授業において意欲的に学習に取り組むことができるよう、教職員が連携し、指導方法の工夫や指導体制の改善に取り組むことが大切です。

学年会議等において児童生徒に関する情報を共有するほか、家庭での様子等について保護者と情報交換するなど、家庭とも連携し指導や支援をしましょう。

[ポイント4]

個に応じた対応の見直し

- ① 児童生徒の変容等の確認 ② 個に応じた対応の点検・見直し

児童生徒が自信をもって学習に取り組むことができるよう、児童生徒の変容等を踏まえて、必要に応じて指導や支援の方法等を見直すことが大切です。

学年会議や保護者との情報交換等を通じて児童生徒の状況、教職員や保護者との関わり等について情報を整理し、個に応じた対応の点検や見直しを行いましょう。

個別の状況の把握



授業が分かりやすくなりました！



子どもたちが意欲的に学習に取り組めるように、それぞれの得意なことや苦手なことを把握したいんです！

子どもたち一人一人の状況を把握したり記録したりする方法を工夫してはどうですか？



1 概要

振り返りシートを通じて、児童生徒一人一人の状況を把握し記録します。また、児童生徒に気になる様子があった場合等には関係する教職員と情報交換を実施します。

2 教職員の働きかけ

- ① 担任との情報交換を実施し、授業中のクラスの様子について説明するとともに、児童生徒一人一人の性格、得意なことや苦手なこと、授業中の配慮事項等を確認します。
- ② 必要に応じて、養護教諭や部活動顧問等との情報交換も実施します。
- ③ 振り返りシートを活用して、児童生徒が授業の中でがんばったことや、自分のよさを生かすことができた場面、困ったことがあった場面等を把握します。
- ④ 児童生徒一人一人への配慮事項や振り返りシートを通じて把握した情報等を記録できるシートを作成し、記録していきます。また、児童生徒に気になる様子があった場合には、担任や関係する教職員と共有します。

※ 担任は、授業担当者等、関係する教職員との情報交換を通じて把握した情報を基に、児童生徒一人一人の記録を整理します。また、児童生徒に気になる様子があった場合には、授業担当者等、関係する教職員と共有します。

全ての教職員がそれぞれの立場から児童生徒一人一人の様子等を把握・記録し、共有できる仕組みを工夫しましょう！

多角的な視点から児童生徒の様子を把握し、教職員がそれぞれの立場から指導・支援に生かしていくことが大切です。



授業における児童生徒の状況把握や記録の工夫

授業の中では、教科等の内容に応じて、話し合い、実験、作業、実習等の様々な学習活動が展開されます。児童生徒が、様々な場面において自分のよさや得意なことを発揮して学習に取り組むことができるよう、児童生徒のよさや苦手とする場面等を把握し、指導・支援に役立てましょう。

[振り返りシートを活用した児童生徒の苦手とする場面等を把握する取組と記録の例]

今日の授業を振り返りましょう。

○月○日(○) ○年○組○番 名前:○○○○

○ 内容: ○○○○

○ 評価の視点

① ……できたか。 ② ……できたか。 ③ ……できたか。

○ 今日の授業でがんばったことを書きましょう。

(例) みんなの前で音読することがんばりました。家で練習してきてよかったです。

○ 今日の授業で自分のよさを発揮できた場面はありましたか？

ア あった

・どのような場面ですか？

(例) 私はタブレットでグラフを作ることが得意なので、グループでの発表のときに、みんなの役に立つことができましたと思います。

イ なかった

・どのような場面があればあなたのよさを生かすことができそうですか？

(例) 模造紙を使った発表があるとよかったです。私は絵を描くことは得意な方だと思うので。

○ 今日の授業で困った場面はありましたか？

ア あった

・どのような場面で、どのようなことに困りましたか？

(例) プリントの解答欄が小さくて、枠の中に書くのが大変でした。

(例) 黒板にたくさん色があったので、大切なことがわからなくなりました。

(例) 作業の内容がたくさんあったので、順番がわからなくなりました。

(例) 先生の話が速かったです。最初の話思い出せなくなり、友達に聞きました。

イ なかった

[教職員のメモの例]

名前: ○○ ○○

日付	単元	得意なこと	活躍の場面	困ったこと	気をつけること
○/○	……	絵を描くこと	模造紙での資料作成	作業内容が多い	作業の流れを黒板に書く
○/○	……	タブレットでのグラフ作成	グループでの発表	私の話が速い	ゆっくり話し、内容を黒板に書く





次の問題に挑戦するぞ!




子どもたち一人一人が達成感を味わえるような授業がしたいんです!



子どもたちが自分の到達度に応じて課題に挑戦していく活動を実施してはどのようにですか?

1 概要

児童生徒が、自分の到達度に応じた課題を選択し、友達とペアになって取り組み、次の課題に挑戦していきます。

2 教職員の働きかけ

- ① 児童生徒がこれまで学習した内容を復習する時間を設定します。
- ② 児童生徒が自分の到達度に応じて取り組むことができる段階的な復習プリント等の課題を用意します。
- ③ 黒板に授業の流れを書くなどして授業の見通しを具体的に説明します。
- ④ それぞれの児童生徒が自分の到達度に応じて課題を選択し、友達とペアになって取り組み、互いに答え合わせをしながら、次の課題に挑戦していく場を設定します。
- ⑤ 机間巡視等を通じて児童生徒の課題への取組状況を観察し、必要に応じて助言します。また、提出された課題を確認し、到達度を記録します。

児童生徒の実態や教科等の内容に応じて、易しいものから難しいものまで幅広く課題を準備するといいですね!

児童生徒が課題を克服していく場面を多く設定することで、教職員が児童生徒のがんばりを認め賞賛する機会が増え、児童生徒が達成感を味わうことにつながります。



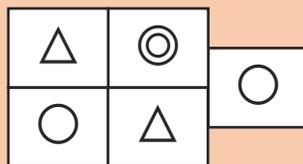
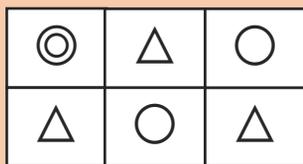
個に応じた学習形態の工夫

授業に対する児童生徒一人一人の安心感を高めるためには、児童生徒にとって分かりやすい学習環境を整備することや学習方法を工夫することに加え、学習形態を工夫することも大切です。クラスの座席に基づいてグループを編成するだけでなく、教職員が意図的にグループのメンバーを構成することで、学習効果が高まる場合があります。

児童生徒一人一人の状況やクラス内の人間関係等を踏まえ、グループ活動のメンバー構成や座席の配置等を工夫しましょう。

〔グループのメンバー構成や座席の配置の例〕

- ・ 児童生徒の到達度や人間関係等を踏まえ、意図的にグループのメンバーを構成します。
- ・ 一つのグループを、当該教科等の学習が得意な児童生徒(◎)、当該教科等の学習が好きな児童生徒(○)、当該教科等の学習を苦手と感じている児童生徒(△)で構成します。
- ・ 「苦手と感じている児童生徒(△)」と「得意な児童生徒(◎)」や「好きな児童生徒(○)」が向かい合ったり、隣り合ったりするように配置します。
- ・ 「苦手と感じている児童生徒(△)」は、「得意な児童生徒(◎)」や「好きな児童生徒(○)」との対話を通じて学習内容への理解を深めることができるようになります。

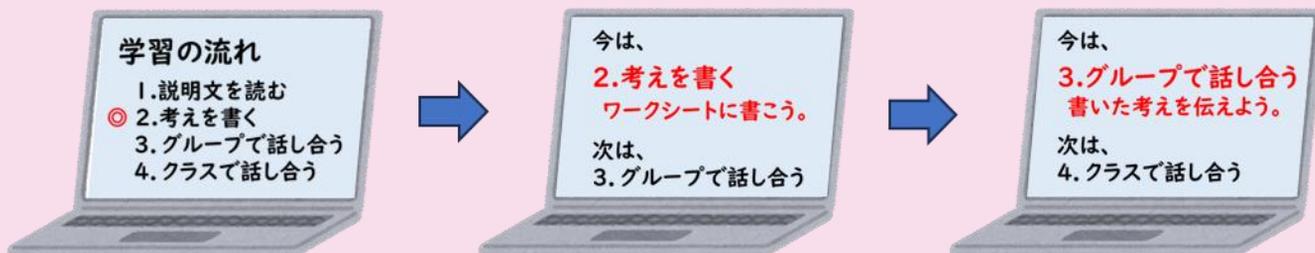


※ 「得意な児童生徒」(◎)や「好きな児童生徒」(○)も満足感や達成感を味わうことができるよう、活躍の場を設定したり、競い合ったりする場の設定を工夫しましょう。

ICT機器を活用した活動例

○ プレゼンテーションソフトの活用

プレゼンテーションソフトを活用して、黒板に書いた授業や活動の流れ、またはより具体的な手順等をスライド資料として整理しておきます。黒板に加え、児童生徒のタブレットに表示することで、授業の流れ等が児童生徒にとってよりわかりやすくなります。





授業に安心して参加できます！



子どもたちがどの授業でも安心感を味わえるようになってほしいんです！

先生方が子どもたちの状況を踏まえて授業を進められるように情報共有の方法を工夫してはありますか？



1 概要

教育相談担当者等が、日頃から全ての教職員が共有する必要がある情報を検討し、それぞれの教職員が入力できるファイルを活用して情報を共有し、教職員がそれぞれの立場で日頃の指導・支援に役立てます。

2 教職員の働きかけ

- ① 全ての教職員が様々な場面において児童生徒の状況を踏まえた指導・支援を実施することができるよう、教育相談担当者の打合せ等において、共有する必要がある情報について検討します。（出欠や遅刻等の状況、仲のよい友達、得意なこと、苦手なこと、配慮が必要なこと、生活アンケートの結果、授業や部活動での様子等）
- ② 校務支援ソフトや表計算ソフト等を活用し、それぞれの教職員が入力できるファイルを作成します。その際、パスワードを設定します。
- ③ 教科担任は、授業前にファイルを確認し、授業中の指導・支援に役立てたり、授業後に授業中の児童生徒の気になる様子等を入力したりします。
- ④ 担任は、関係する教職員が入力した内容を、日頃の児童生徒への指導・支援や個別面談、保護者との情報交換等に活用します。
- ⑤ 学年会議や教科打合せ等の機会に、ファイルの内容を踏まえながら情報交換を実施します。

担任や教科担任だけでなく、様々な立場の教職員が児童生徒の気になる様子等を入力するようにしましょう！

教職員が児童生徒の状況を多角的に捉えることは、一人一人の実態に配慮した指導・支援につながります。



家庭との連携

児童生徒一人一人の実態に配慮した指導・支援を実施するためには、家庭との連携が必要不可欠です。児童生徒が欠席したときの電話連絡、保護者面談、連絡帳の通信欄等を活用して、学校や家庭での児童生徒の姿を共有することは、家庭との連携のための第一歩です。学校が家庭と連携し、児童生徒を中心に据えた指導・支援を実施することができるよう、日頃から保護者との関わりを大切に、よりよい関係を構築することが大切です。

[保護者の安心感につながる保護者との関係づくりのポイント]

- 保護者の思いを「きく」ためのポイント
 - ・ あいづちを打ちながら、できるだけ口をはさまずに
 - ・ 相手が話した内容を繰り返しながら
 - ・ せかすことなく、おだやかに
 - ・ きいているときの自分の感情を確かめながら冷静に
- 保護者に「伝える」ためのポイント
 - ・ まずは感謝やねぎらいを
 - ・ 子どものよいところは具体的なエピソードで
 - ・ 課題となることは、情報を整理して客観的に
 - ・ 指導・支援のアイデアは、保護者が選択できるように

(参考)「保護者とのよりよい連携のためのヒント」(栃木県総合教育センター)

「個別の教育支援計画」の作成と活用

障害のある子どもが、生涯にわたり自立し社会参加していくことができるよう、就学前から学校卒業後までの一貫した支援を行うことが求められています。

学校においては、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内体制を整え、個別の教育支援計画を活用して、家庭や医療、保健、福祉、労働等の関係機関と支援情報の共有を図りつつ、指導・支援に取り組み、その成果を進路先に適切に引き継いでいくことが大切です。

[個別の教育支援計画]

- お子さん・保護者の願いに基づき、就学前から学校卒業後まで一貫した的確な支援を行っていくために作成・活用する計画書です。
- 各年齢段階における関係機関等による支援の全体像、お子さん・保護者の願い、お子さんの生活の様子、学校での指導目標や手立て、合理的配慮等が記載されます。
- お子さん・保護者の意向を踏まえ、医療、福祉、保健、労働等の関係機関と、支援に必要な情報の共有を図り、作成・活用します。

(参考)「就学前から学校卒業後にわたる一貫した支援のために～「個別の教育支援計画」の作成と活用～」(栃木県教育委員会)





授業が楽しくなってきました!



子どもたちがどの授業でも自分のよさを生かして学習に取り組めるようになってほしいんです!

先生方が、子どもたちの状況に応じた指導方法等について話し合う場を定期的に設定してはごうですか?



1 概要

教育相談担当者が中心となって、様子が気になる児童生徒への対応等について、関係する教職員が話し合う場を定期的に設定し、児童生徒の状況を踏まえながら指導・支援の改善を図っていきます。

2 教職員の働きかけ

- ① 教育相談担当者等が、様子が気になる児童生徒への対応について、関係する教職員が話し合う場を設定します。
- ② 教育相談担当者、担任、教科担任、部活動顧問等が、児童生徒の生活の様子や、児童生徒との関わりや指導・支援の状況について共有します。
- ③ 児童生徒の気になる様子の背景等について話し合い、今後の指導・支援の目標を設定します。
- ④ 目標の達成に向けて、これまでの関わりや指導・支援の方法等の課題を整理し、今後のそれぞれの立場での関わりや指導・支援の方法、役割分担等を明確にします。また、次回の話合いの時期を設定します。
- ⑤ 関係する教職員がそれぞれの立場から指導・支援を進め、次回の話合いにおいて指導・支援状況等を共有し、児童生徒の状況に応じて改善を図っていきます。

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが話合いに参加する機会を設定するといいですね!

専門家から見立てや助言を得ることで、一人一人の実態に応じて効果的な指導・支援を実施することができます。



ケース会議の活用

児童生徒一人一人の実態に応じて効果的な指導・支援を実施するためには、児童生徒の状況を多角的に理解し、関係する教職員が、指導・支援の目標等を共有した上で、それぞれの立場から意図的・計画的に指導・支援を実施することが大切です。定期的にケース会議を開催し、児童生徒への関わりや指導・支援の方法等の点検・改善を図りながら、組織的な指導・支援を実施しましょう。

〔ケース会議の流れ等〕

- 1 情報の共有
担任からの説明や参加者からの質問をもとに情報を共有します。
- 2 背景・要因の検討
児童生徒が何に困っているのか、なぜそのような状態にあるのかを考えます。
- 3 指導目標の設定
現実的で評価しやすい当面の目標を設定します。
- 4 対応策の検討
検討した背景・要因をもとに、実施可能な指導・支援の方法を検討します。
- 5 役割分担の明確化
誰が、いつまで、どのような指導・支援を実施するかを明確にします。
- 6 次回の確認
次回の会議を1か月後を目安に設定します。

(参考)「児童生徒への適切な指導のために～ケース会議の進め方～」
(栃木県総合教育センター)

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの協働

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと協働し、児童生徒一人一人の実態に応じた指導・支援を実施することができるよう、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの専門性や役割等を正しく理解しましょう。

(スクールカウンセラーの役割等)

心理に関する高度な専門的知見を有する者として、カウンセリング等を通じて、児童生徒や保護者への支援や教職員への助言等を行います。

(スクールソーシャルワーカーの役割等)

福祉の専門性を有する者として、児童生徒や保護者との面談等を通じて、子供の貧困等の様々な課題を抱える児童生徒や保護者の支援ニーズを把握し、福祉機関等との調整を図りながら支援体制の構築等を行います。



学業指導と特別支援教育

本県では、特別支援教育の基本的な考え方を「障害のある子どものみを対象とした特別な教育ではなく、全ての子どもに対する一人一人の能力や特性に応じた指導・支援を一層充実させ、子どもが本来持っている力を最大限に発揮できるようにすること」と捉えています。そして、教職員は、全ての子ども自らが自信を育むとともに周囲の人々と相互に支え合う関係を築くことができるよう、子ども同士が認め合う関係を育むこと、わかりやすい環境を整えることを意識しながら、児童生徒の安心感を高める指導・支援に努め、その中で、障害のある子どもが、生涯にわたって日々の自立と社会参加を積み重ね、主体的に自分のできることを広げていくことができるよう、一人一人の障害の状態等に応じたきめ細かな指導・支援に取り組むこととしています。

このような、障害の有無に関わらず、全ての子どもが自己実現（社会的自立）を図っていくことを目指し、全ての子どもにとって安心できる環境の下、全ての子どもを対象にわかりやすい学習活動等を意識して指導・支援を行う取組は、学業指導の考え方そのものです。まさに日々の特別支援教育の視点に立った教育実践は、学業指導であると言えます。

※ 「子ども」には幼児を含みます。

